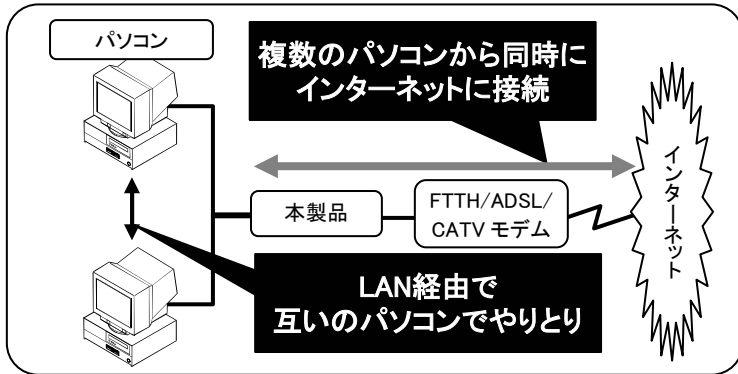
I·O DATA

NP-BBRP 取扱説明書

132350-01

【本製品を使えば…】

本製品を使えば、複数台のパソコンから同時にFTTH/ADSL/CATV経由でインターネットに接続できるようになります。また、本製品に接続したパソコン同士のデータのやりとりもできるようになります。

【ご注意】

1)本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2)本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3)本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5)本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8)お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9)弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

本製品を使ってインターネットに接続するまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

接続する前にすること

本製品の設定画面を表示させるまで

インターネットに接続するための設定をする

必要なときに読むところ

本製品の付属情報や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

必ずお守りください

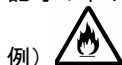
ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。
弊社の本製品以外の製品全般についての内容も記載しています。

■警告及び注意表示

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

厳守

本製品を使用するときは、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

ACアダプタをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

発火注意

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- ●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。
  指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- ●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- ●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。
  給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

厳守

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ずパソコン本体・周辺機器の電源を切り、本製品のACアダプタを電源コンセントから抜いてから行ってください。

ACアダプタを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

水濡れ禁止

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。
お風呂場、雨天・降雪中（屋外）、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

禁止

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

禁止

日本国外で使用できません。

厳守

本製品は安定した場所に設置してください。

ぐらついた台の上や傾いたところには置かないでください。
落ちたり、倒れたりして事故の原因となります。水平なところに置いてください。

ACアダプタについて

厳守

感電注意

発火注意

AC アダプタの取り扱いは以下のことにご注意ください。

火災・感電の原因となります。

- ACアダプタを使用する際は、必ず添付のACアダプタもしくは指定のACアダプタを使用してください。
- ACアダプタの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。
- ACアダプタを保温・保湿性の高いもの（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）の上ではご使用にならないでください。
- 本製品に添付のACアダプタは、AC100V専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
- ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。

- ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずアダプタ部分を持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタを、コンセントに接続したり抜いたりしないでください。感電の原因となります。
- ACアダプタがコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコンや本製品に触らないでください。感電の原因となります。
- ACアダプタはほこりが付着していないことを確認し、根本までしっかり差し込んでください。ほこりなどが付着していると接触不良で火災の原因となります。

⚠ 注意

本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●通風孔がある製品は、通風孔をふさぐような場所(保管は問題ありません)
●腐食性ガス雰囲気中（ＣＩ$_{2}$、Ｈ$_{2}$Ｓ、ＮＨ$_{3}$、ＳＯ$_{2}$、ＮＯ$_{X}$など）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

パソコンから本製品にアクセス中（LEDが点滅中）に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

ケーブルについて、下記のことにご注意ください。

●ケーブルは足などに引っ掛からないように、配線してください。足を引っ掛けると、けがや接続機器の故障の原因となります。
●熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

■取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
・ぬらさないでください。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

■誤接続の注意

LAN/WANコネクタ（RJ-45）には、適応規格外のケーブル（電話用ケーブル、INSケーブルなど）を差し込まないでください。

■修理について

本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

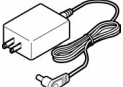
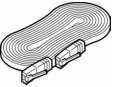
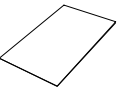
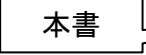
☞ 10ページ

▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種などを確認します。

☞ 11ページ

▼

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 14ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に、以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながら、ご確認ください。万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ 本製品（１台）	□ ACアダプタ（１個）
□ スリム型LANストレートケーブル（１本：約１m）	□ ハードウェア保証書（１枚）
□ スタンド（２個）	☑ 取扱説明書（１冊） 本書
□ クイックガイド（１枚）	

注意！

・箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
・イラストは若干異なる場合があります。

参考

《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》

ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にシリアル番号が必要な場合があります。
シリアル番号は本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。（ 例： ABC1234567ZX ）

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

●ユーザー登録 ⇒ **http://www.iodata.jp/regist/**
●サポートソフトのダウンロード ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

動作環境を確認する

本製品に接続できるLAN機器
本製品には、［WAN］ポートと［1］［2］［3］［4］ポートがあります。 ［WAN］ポートには、FTTH/ADSL/CATVモデムをLANケーブルで接続します。 ［1］［2］［3］［4］ポートには、パソコン※をLANケーブルで接続できます。 ※５台以上接続する場合は、別途ハブと接続用LANケーブルが必要です。 「LANアダプタを搭載し、TCP/IPが正常に動作するパソコン」であれば接続できます。

本製品の設定ができるパソコン

機種	OS（日本語版に限る）
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98(Second Edition 含む) ・Windows 95 ・Windows NT 4.0(SP4 以上)
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・Apple Macintoshシリーズ	・Mac OS X （10.1～10.2） ・Mac OS 8.0～9.2.2

弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。UNIX 系 OS などでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

設定に必要なソフトウェア

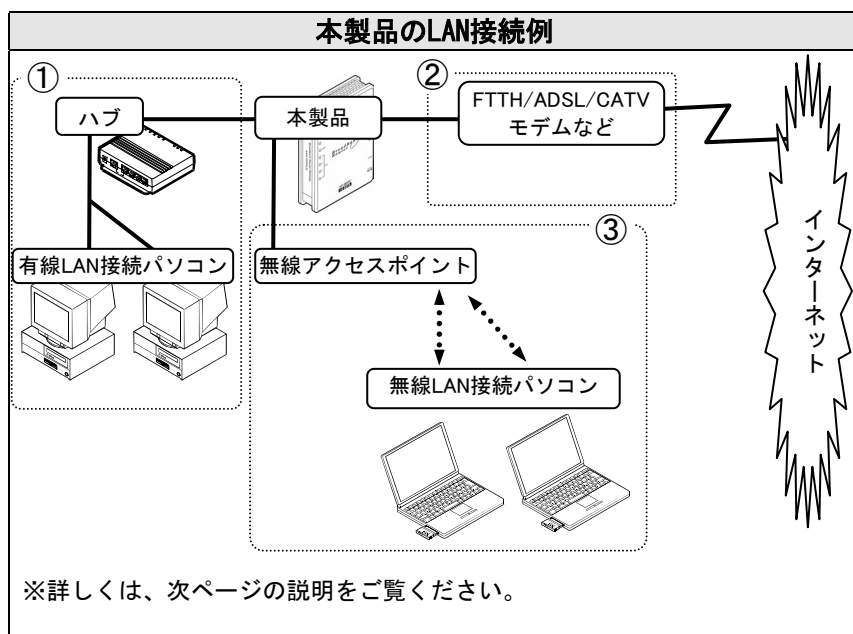
本製品を設定するには、以下のバージョンのWebブラウザが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

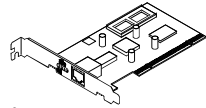
Internet Explorer バージョン5.0以上

Internet Explorer のバージョン情報は、Internet Explorer 画面の[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。

インターネット接続環境の準備、確認 （下記をご用意、ご確認ください。）	
契約	インターネットに接続するには、FTTH/ADSL/CATV（インターネットサービスプロバイダ）との契約が必要です。本製品を使用する前に契約しておいてください。
インターネット接続の確認	**本製品を接続する前に**、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できることをご確認ください。方法について、詳しくはプロバイダにお問い合わせください。
プロバイダの資料	本製品を設定する際に、プロバイダの資料が必要になります。本製品の設定前にご用意ください。

本製品のLAN接続例

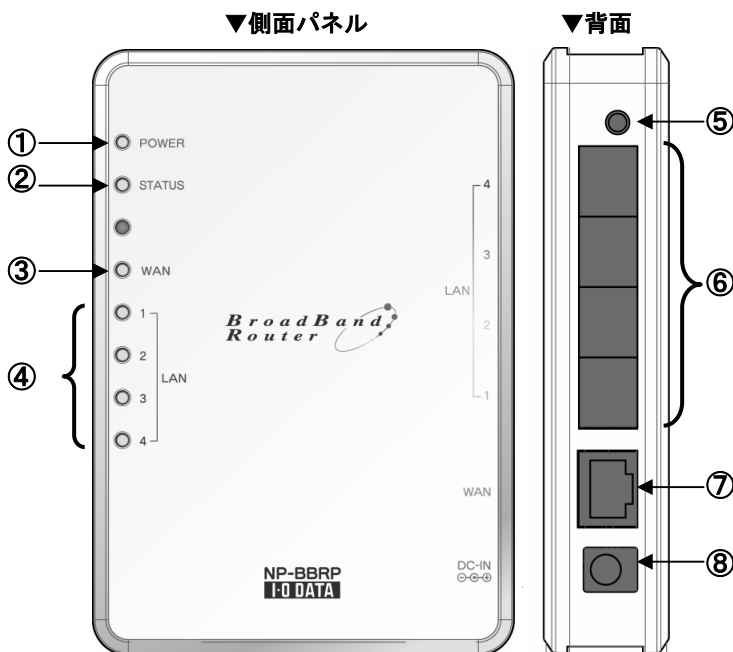
※詳しくは、次ページの説明をご覧ください。

①：有線LAN接続する

LANポートを搭載したパソコンと接続できます。
（LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバ
　などをインストールしておきます。
　パソコンによっては、初めからついているものもあります。）
本製品のLANポート([1]～[4])の数以上のパソコンを接続する場合は、
別途ハブとパソコンの台数分のLANケーブルが必要です。

②：本製品を通してインターネットに接続する

プロバイダ指定のFTTH/ADSL/CATVモデムが必要です。
本製品の[WAN]ポート ⇔ FTTH/ADSL/CATVモデムを、LANケーブルで接続するとインターネットに接続できます。
※本製品を使用する場合、フレッツ接続ツールなどのPPPoEクライアント
　ソフトウェアは使用しません。

③：無線LANを使用する場合

別売の無線LANアクセスポイントを本製品のLANポート([1]～[4])に接続します。
あとはパソコンに取り付けた無線LANアダプタを使用すると、無線LANアクセスポイントを通して、無線LAN接続できます。

各部のなまえとはたらき

名称	色	用途
① POWER ランプ	青	点灯：電源オン時 消灯：電源オフ時
② STATUS ランプ	赤	通常は消灯しています。 設定の初期化時などに点灯/点滅します。
③ WAN ランプ	緑	点灯：⑦WANポートにLANケーブルが接続されている状態 点滅：データの送受信が行われている状態 消灯：⑦WANポートにLANケーブルが接続されていない状態
④ LAN ランプ (1,2,3,4)	緑	点灯：⑥LANポート(1,2,3,4)にLANケーブルが接続されている状態(1～4ポートに対応したランプが点灯) 点滅：データの送受信が行われている状態 消灯：⑥LANポート(1,2,3,4)にLANケーブルが接続されていない状態

名称	用途
⑤ RESET	本製品の設定内容を工場出荷時に戻します。 詳しくは、【出荷時設定に戻す】（96ページ）をご覧ください。
⑥ LAN ポート (1,2,3,4)	パソコンやハブ（ローカルネットワーク側）を接続するためのポートです。（10Mbpsと100Mbpsを自動認識します。接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。）
⑦ WAN ポート	FTTH/ADSL/CATVモデムをLANケーブルで接続するためのポートです。（10Mbpsと100Mbpsを自動認識します。接続されたLANケーブルが、ストレートかクロスかを自動認識します。）
⑧ DC IN	添付のACアダプタを接続します。

設定準備をする

本製品の設定画面を表示できるようにします。（ここでは、本製品の具体的な設定はまだ行いません。）

①つなぐ前に確認する

本製品と設定用パソコンをつなぐ前の確認をします。

☞ 18ページ

▼

②設定用パソコンをつなぐ

本製品と設定用パソコンをつなぎます。

☞ 23ページ

▼

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを変更します。

☞ 25ページ

▼

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンの変更したIPアドレスを確認します。（Windowsのみ）

☞ 36ページ

▼

⑤設定画面を表示させる

本製品のWeb設定画面を表示できることを確認します。

☞ 40ページ

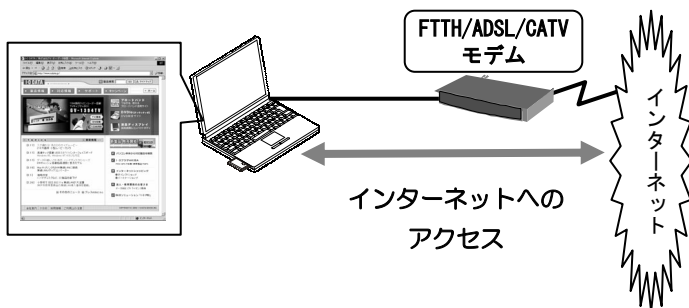
①つなぐ前に確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【①つなぐ前に確認する】の作業は、本製品を接続しない状態で行います。（設定用パソコンとモデムを直結して行います。）

確認①　インターネット接続を確認する

FTTH/ADSL/CATVモデムとパソコンを直結して、インターネットに接続できることを確認します。

プロバイダからの資料にしたがって設定してください。
WEBブラウザを起動して、ホームページを表示できることをご確認ください。
接続方法は、プロパイダの資料にしたがってください。

インターネット接続を確認したら、パソコンとモデムを直結したまま【確認②　現在のIPアドレスを確認する】（次ページ）へお進みください。

確認②　現在のIPアドレスを確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【確認②　現在のIPアドレスを確認する】の作業も、本製品を接続しない状態で行います。
（パソコンとモデムを直結して行います。）

本製品を接続しない状態でのIPアドレスを記入してください。

IPアドレスの調べ方は、ページ下部の参照ページをご覧ください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IPアドレス	.　　.　　.

※ここで確認したIPアドレスが　**192.168.0.xxx**　である場合、後でモデムと本製品を接続する前に、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。詳しくは42ページの【参考】をご覧ください。

IPアドレスを記入したら、【②設定用パソコンをつなぐ】（23ページ）へお進みください。

～IPアドレスの調べ方～

▼お使いのOSによって調べ方が異なります

Windows XP/2000/NT 4.0の場合……………………………………………次ページ
Windows Me/98/95の場合……………………………………………………21ページ
Mac OS Xの場合……………………………………………………………22ページ
Mac OS (Classic)の場合…………………………………………………22ページ

●Windows XP/2000/NT 4.0でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 [コマンドプロンプト]を起動します。
⇒Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。
⇒Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。
⇒Windows NT 4.0の場合
［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

3 IPCONFIGと入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG
```

4 IPアドレスを確認して、19ページに書き込みます。
※下記のアドレスは架空のものです。

```
IP Address .................... :202.   .10.1
Subnet Mask ................... :255.   .255.0
Default Gateway ............... :202.   .10.2
```

確認

5 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

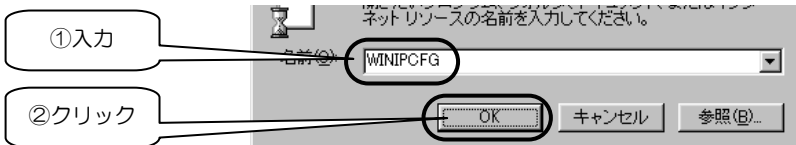
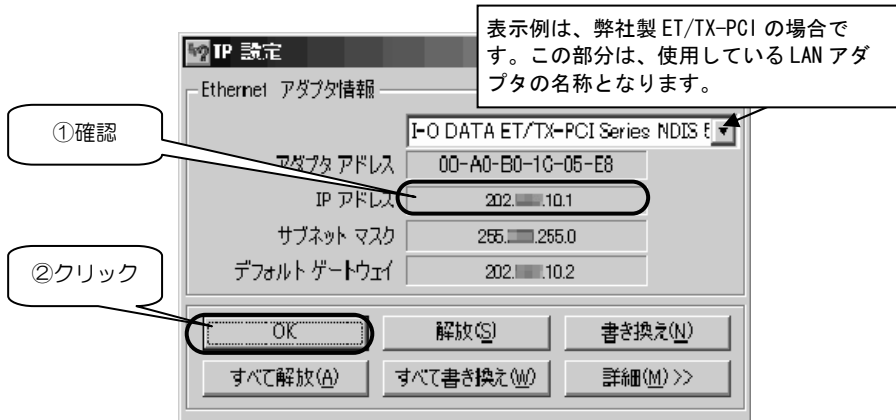
```
C:¥>EXIT
```

6 Windowsを終了し、LANケーブルを抜きます。

●Windows Me/98/95でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

3 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

4 IPアドレスを確認して、19ページに書き込みます。
書き込んだら、[OK]ボタンをクリックします。
※下記のアドレスは架空のものです。

5 Windowsを終了して、LANケーブルを抜きます。

●Mac OS X でのIPアドレスの調べ方

1. パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
   また、モデムの電源が入っていることも確認します。
   ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2. ［アップルメニュー］→［場所］→［ネットワーク環境設定］をクリックします。

3. ［表示：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4. 表示されたIPアドレスを確認して、19ページに書き込みます。

5. Mac OSを終了して、LANケーブルを抜きます。

●Mac OS（Classic）でのIPアドレスの調べ方

1. パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
   また、モデムの電源が入っていることも確認します。
   ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2. ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

3. ［経由先：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4. 表示されたIPアドレスを確認して、19ページに書き込みます。

5. Mac OSを終了して、LANケーブルを抜きます。

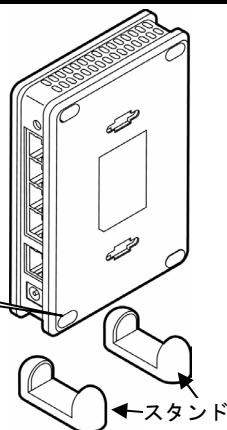
②設定用パソコンをつなぐ

設定するために、本製品をパソコンに接続します。

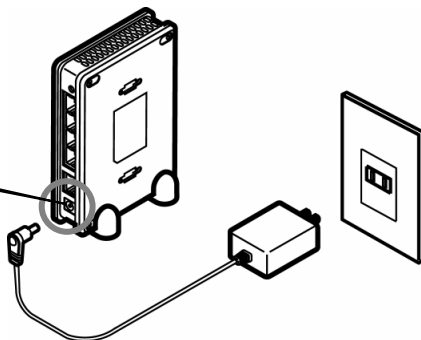
ここではまだモデムを接続しないでください。

FTTH/ADSL/CATVモデムは本製品の設定時に接続します。ここでは、本製品と設定用パソコンを１対１で接続してください。

1 本製品にスタンドを取り付けます。

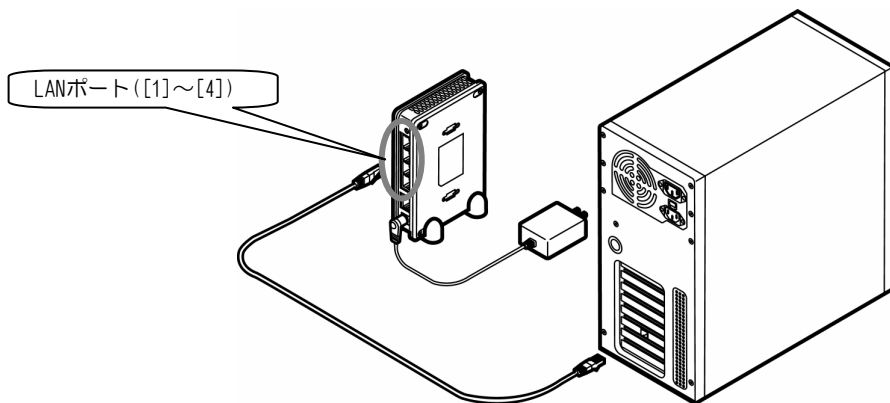
本製品側面のゴム足の上に、
スタンドを取り付けます。

注意！

本製品は横置きでも使用できます。横置きで使用する場合は、スタンドは使用しません。

2 添付のACアダプタを、本製品のDC-INに接続し、コンセントにつなぎます。

注意！

ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。

3 添付のLANケーブルで本製品のLANポート([1][2][3][4]のいずれか）とパソコンを接続します。

パソコンの電源が切れている状態で接続します。

参考

ストレート/クロスタイプを自動識別します。(Auto MDI/MDI-X 機能) よって、使用ケーブルがストレート/クロスのどちらであっても、問題なく使用できます。

以上で取り付けは終了です。【③IPアドレスを設定する】（次ページ）へお進みください。

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得] など）に設定します。

設定用パソコンのIPアドレスを自動的に取得するように設定します。

下記の該当するページをご覧ください。

チェック	**モデムを接続していませんか？** モデムは本製品の設定時に接続します。ここでは、モデムは接続せず、本製品とパソコンを１対１で接続してください。

～IPアドレスの設定変更～

▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XPの場合 ·· 次ページ
Windows 2000の場合 ······································ 28ページ
Windows Me/98/95の場合 ·································· 30ページ
Windows NT 4.0の場合 ···································· 32ページ
Mac OS X の場合 ··· 34ページ
Mac OS（Classic)の場合 ·································· 35ページ

Windows XPでIPアドレスを設定する

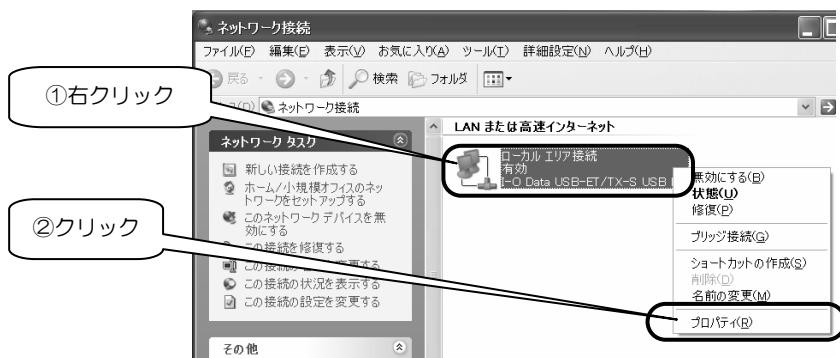
1 パソコンの電源を入れます。

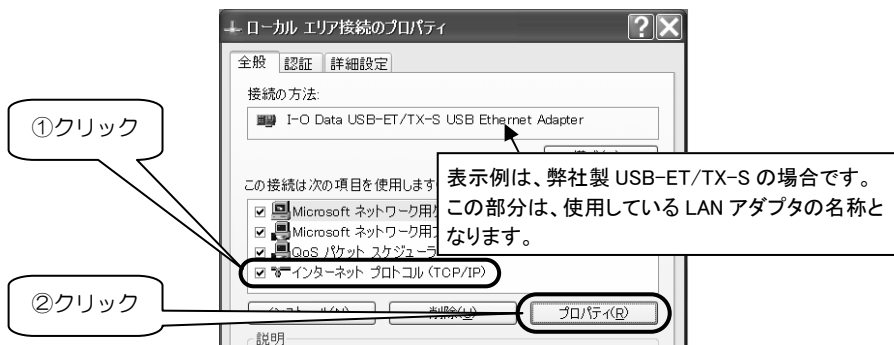
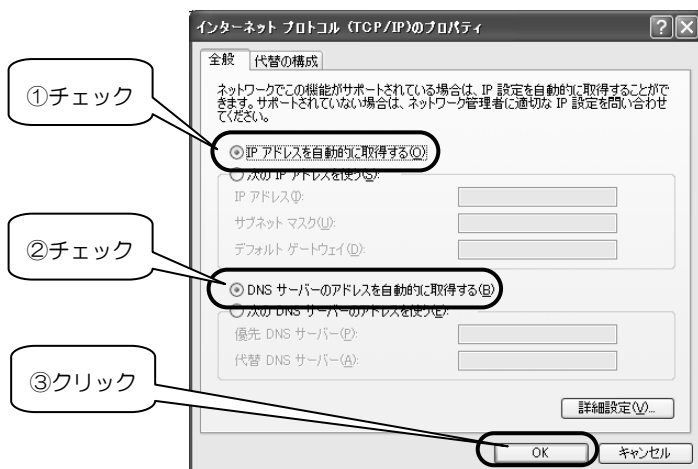
2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順5へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

5 [ローカルエリア接続] を右クリックし、メニュー内の[プロパティ] をクリックします。

Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

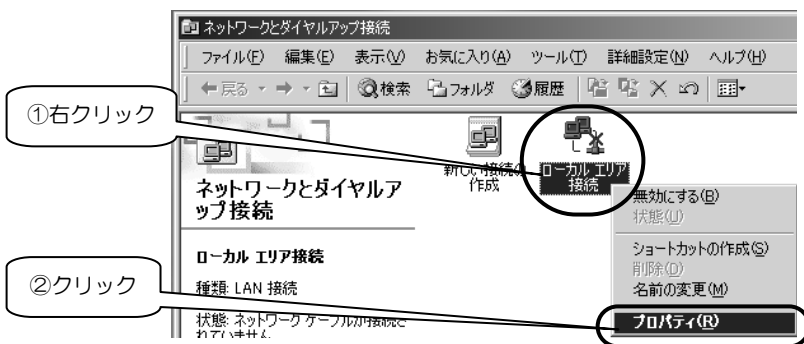
6 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 ［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］にチェックして、［OK］ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

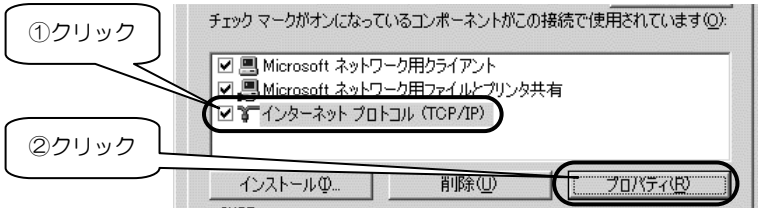
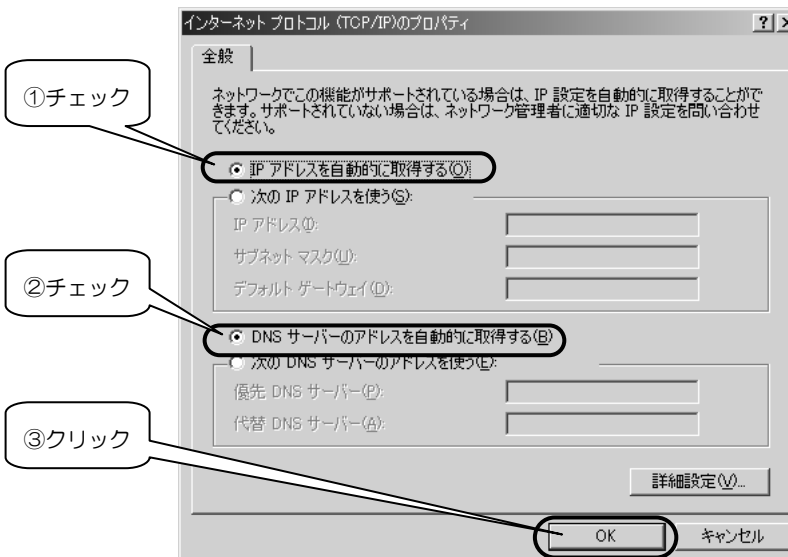
【④IPアドレスを確認する】（36ページ）へお進みください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れます。

2 ［マイネットワーク］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

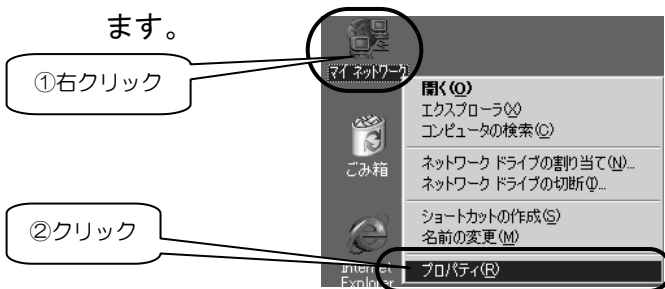
3 ［ローカルエリア接続］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

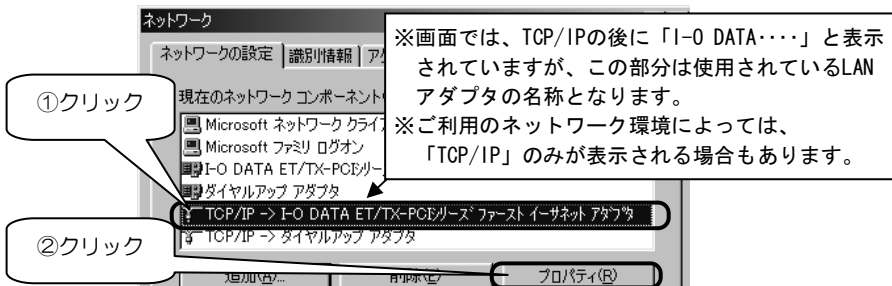
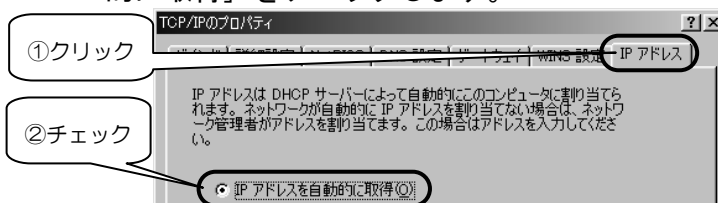
4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5 ［IPアドレスを自動的に取得する］をチェックし、［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］をチェック後、［OK］ボタンをクリックします。

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（36ページ）へお進みください。

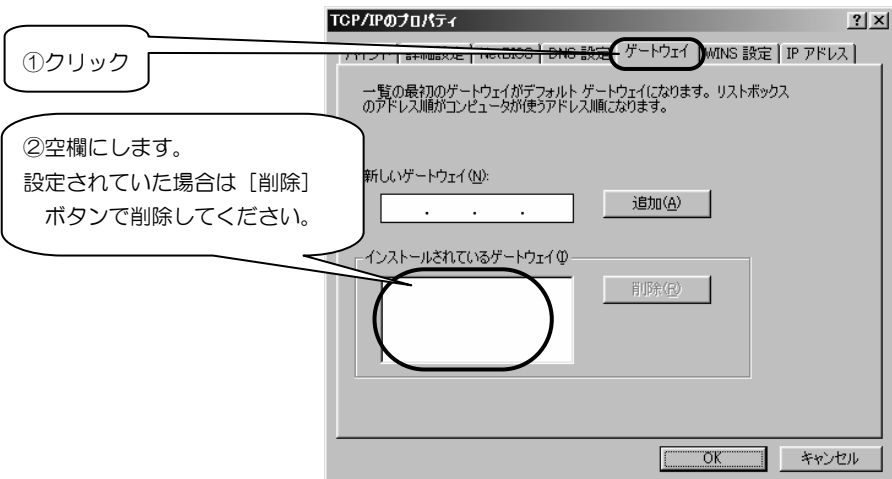
Windows Me/98/95でIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

2 ［マイネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP］（あるいは［TCP/IP -> xxxxxxx］）をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合、［TCP/IP−>xxxxxxxx］と表示されます。

4 ［IPアドレス］タブをクリックして、［IPアドレスを自動的に取得］をチェックします。

Windows Me/98/95でIPアドレスを設定する（つづき）

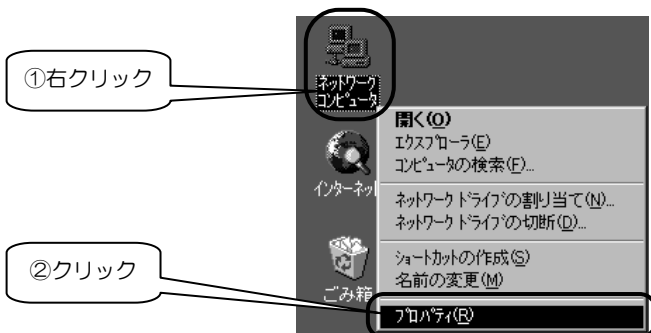
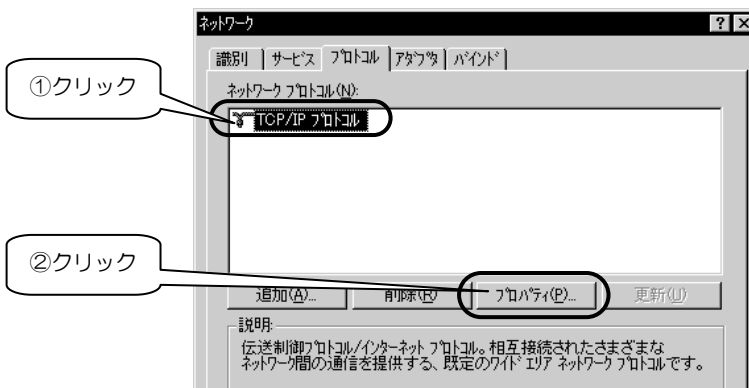
5 ［DNS設定］タブをクリック後、[DNSを使わない]をチェックします。

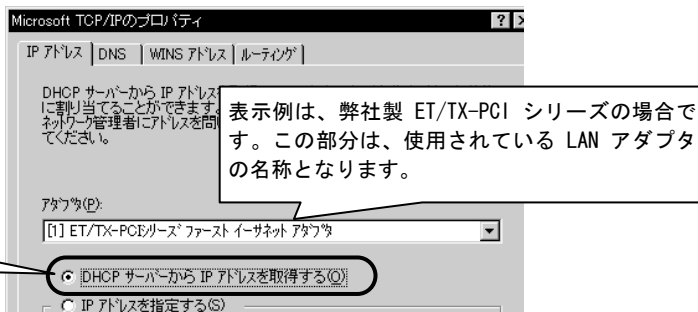
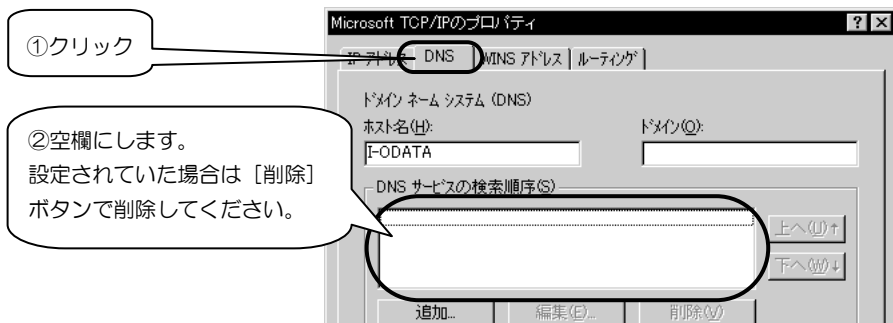
6 ［ゲートウェイ］タブをクリック後、すでに設定されているゲートウェイがある場合は、［削除］ボタンで設定を削除してください。

7 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（36ページ）へお進みください。

Windows NT 4.0

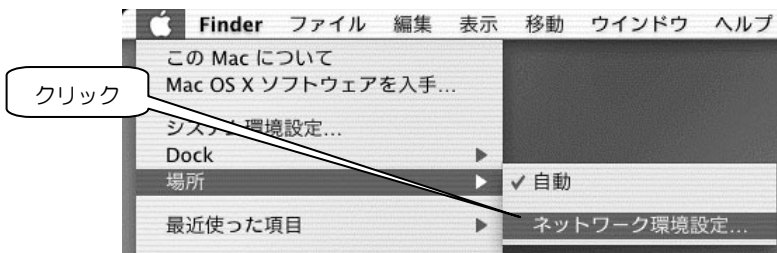
1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

2 ［ネットワークコンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP プロトコル］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

Windows NT 4.0（つづき）

4 ［IPアドレス］タブで［DHCPサーバーからIPアドレスを取得する］をチェックします。

5 ［DNS］タブをクリック後、すでに設定されているDNSサービスがある場合は、［削除］ボタンで削除してください。

6 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（36ページ）へお進みください。

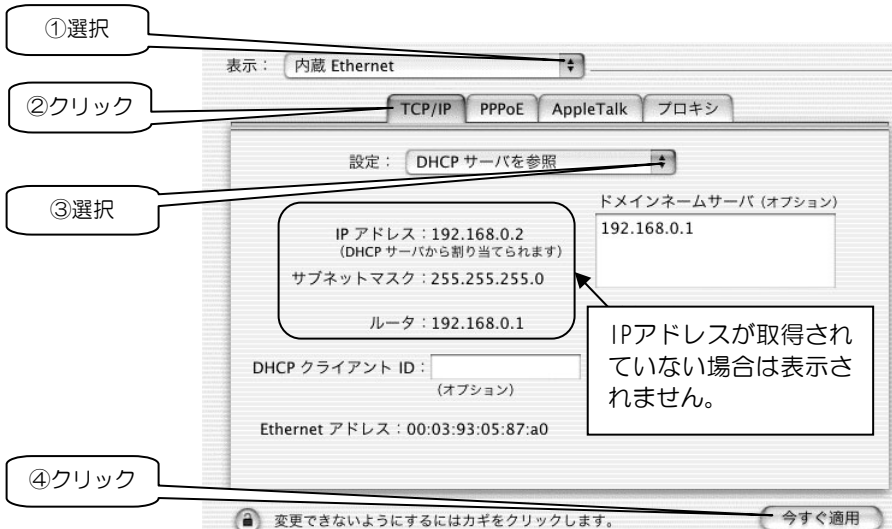
Mac OS X

1 [場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[表示]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernetなど）を選びます。

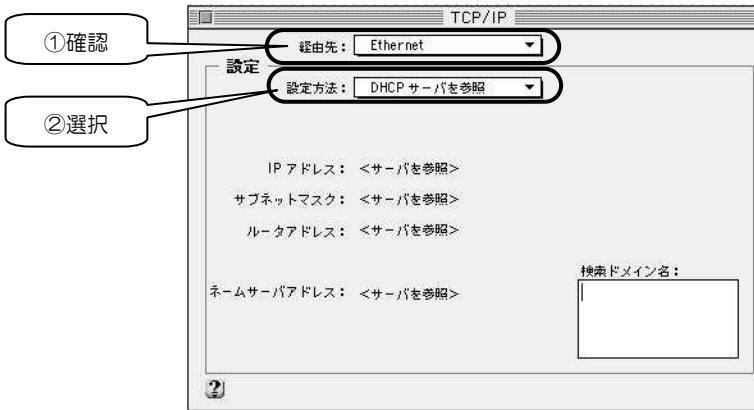
②[TCP/IP]をクリックします。

③[設定]で[DHCPサーバを参照]を選びます。

④[今すぐ適用]をクリックします。

この後、【④IPアドレスを確認する】を読み飛ばし、
【⑤設定画面を開く】（40ページ）をご覧ください。

Mac OS (Classic)

1 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

2 使用しているLANインターフェイスであることを確認して、［DHCPサーバを参照］を選択し、画面を閉じます。

この後、【④IPアドレスを確認する】を読み飛ばし、
【⑤設定画面を開く】（40ページ）をご覧ください。

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンのIPアドレスが正しく取得できているかを確認します。

設定用パソコンのIPアドレスを確認します。

下記の該当するページをご覧ください。

Mac OSの場合は、【③IPアドレスを設定する】内の手順*2*で確認できます。

～IPアドレスの調べ方～

▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XP/2000/NT 4.0でIPアドレスを確認する

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG -ALL と入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG -ALL
```

Windows XP/2000/NT 4.0でIPアドレスを確認する(つづき)

3 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　　(xxx は2～33)
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

【困った時には】の105ページをご覧ください。

参考

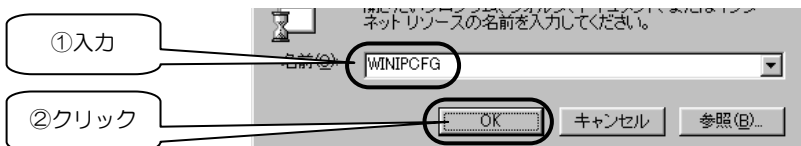
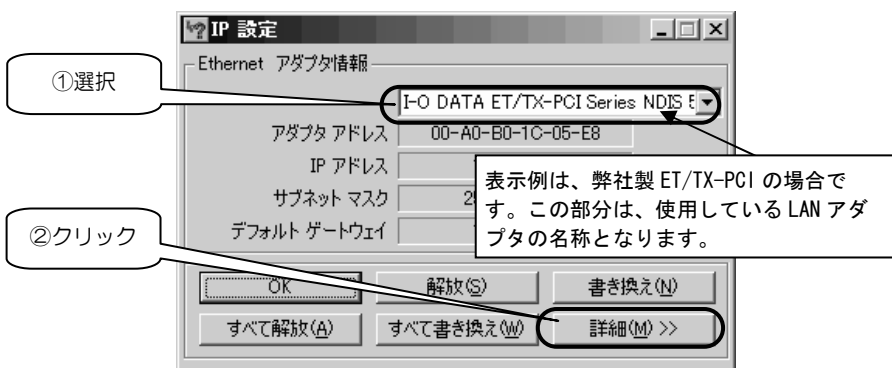
① [IP Address] …本製品から割り当てられたパソコンの IP アドレス値
② [Subnet Mask] …本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③ [Default Gateway] …本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品の IP アドレスです。）
④ [DHCP Server] …本製品から割り当てられたパソコンの DHCP サーバ値（本製品の IP アドレスです。）
⑤ [DNS Servers] …本製品から割り当てられたパソコンの DNS サーバ値（本製品の IP アドレスです。プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。）

4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

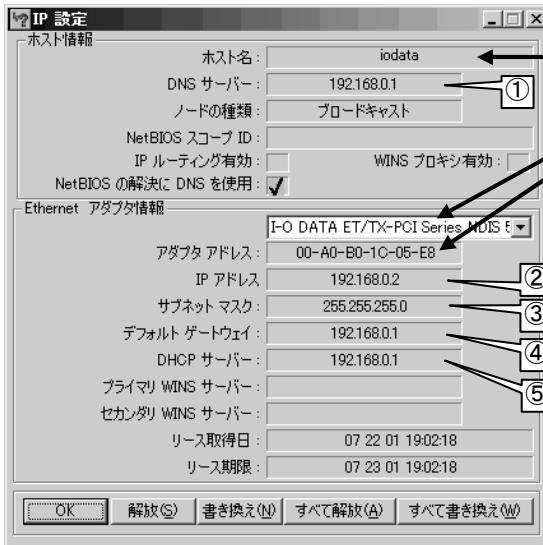
【⑤設定画面を開く】（40ページ）をご覧ください。

Windows Me/98/95でIPアドレスを確認する

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

2 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、［詳細］ボタンをクリックします。

4 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx　（xxx は2～33）
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

Windows Me/98/95でIPアドレスを確認する(つづき)

正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の105 ページをご参照ください。

上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値（アドレス）です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。

【⑤設定画面を開く】（次ページ）をご覧ください。

⑤設定画面を表示させる

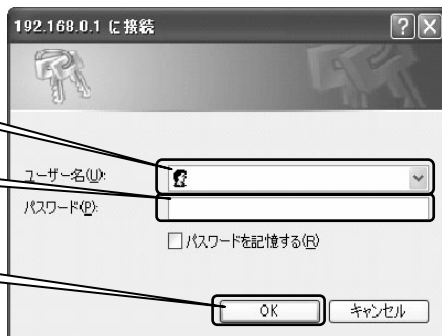
本製品を設定するための設定画面を表示できることを確認します。

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

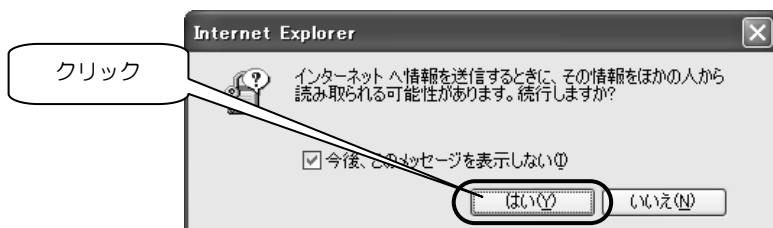
上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。本製品がパソコンに LAN 接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、［OK］ボタンをクリックします。

ユーザー名：　（入力なし）
パスワード：　（入力なし）

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。出荷時のパスワードは［空白］ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法は、【高度な設定】(69 ページ) を参照してください。

【困った時には】の
99 ページを
ご参照ください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

いったん画面を閉じて、【インターネットに接続する】（45ページ）へお進みください。

⑤設定画面を表示させる

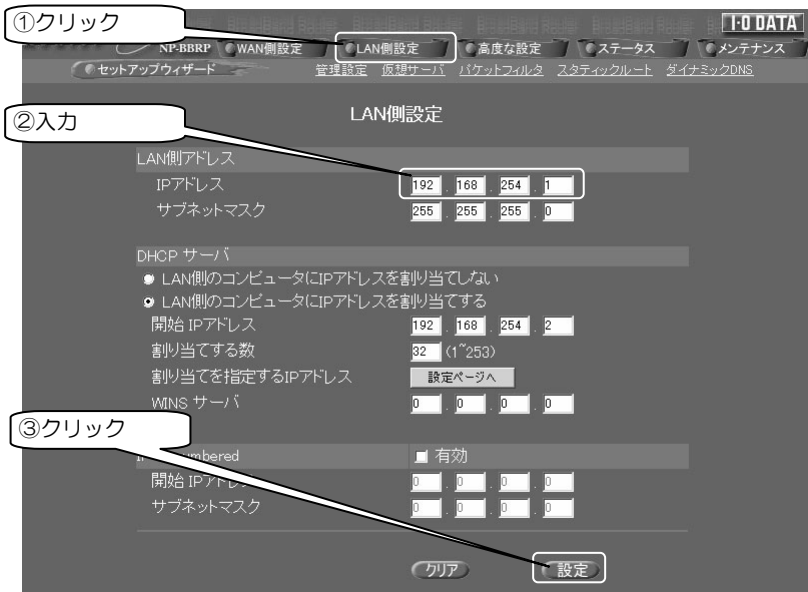
【①つなぐ前に確認する】(19ページ)で確認したIPアドレスが、192.168.0.xxx だった場合

19ページで確認したIPアドレスが**192.168.0.xxx**だった場合、本製品のLAN側のIPアドレスを変更する必要があります。下記の方法で変更してください。

1 本製品LAN側のIPアドレスを変更します。

①[LAN側設定]をクリックします。

②IPアドレス欄に **192.168.254.1** と入力します。

③[設定]ボタンをクリックし、画面の指示にしたがいます。

2 パソコンを再起動します。

3 【④IPアドレスを確認する】(36ページ)へ戻り、IPアドレスが以下のように取得されていることを確認します。

IPアドレス　：　192.168.254.xxx(xxxは2～32)

⇒IPアドレスが192.168.0.xxxのままの場合、IPアドレスを更新してみてください。IPアドレスの開放と更新方法は次ページの参考をご覧ください。

この後本書内で、192.168.0.1 と表記されているところは、192.168.254.1 と読み替えてください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000/NT 4.0の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。

③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスを再取得します。

④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98/95の場合》

①WINIPCFGを起動します。

［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFGと入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

インターネットに接続する

本製品を使用して、インターネットに接続します。

①本製品をモデムに接続する

FTTH/ADSL/CATVモデムを本製品と接続します。

☞ 46ページ

▼

②設定画面を開く

本製品の設定を行うために、設定画面を開きます。

☞ 48ページ

▼

③回線に接続する

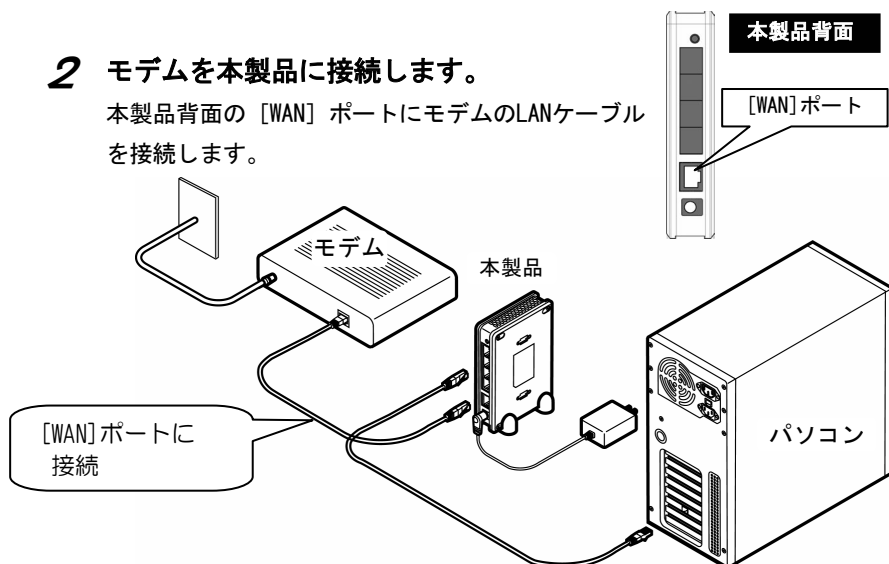
インターネットに接続するための設定を行います。プロバイダからの資料をご用意ください。

☞ 50ページ

①本製品をモデムに接続する

1 パソコン、モデム、本製品の電源をすべて切ります。

2 モデムを本製品に接続します。

本製品背面の［WAN］ポートにモデムのLANケーブルを接続します。

3 モデム⇒本製品⇒パソコンの順に電源を入れます。

①モデムの電源を入れます。（モデムの取扱説明書を参照）

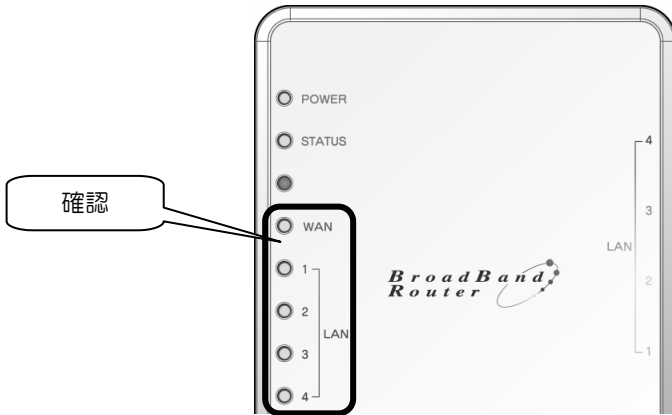
②本製品[DC-IN]にACアダプタを接続し、コンセントにつなぎます。

③パソコンの電源を入れます。

・LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。
AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。

・モデムとの接続は、必ず［WAN］コネクタで接続してください。
他のコネクタに接続すると、本製品を正しく使用できません。

4 しばらくして、本製品の［WAN］ランプとパソコンをつないだ［LAN］ランプ(1～4)が点灯することを確認してください。

▼本製品側面

LAN ケーブルや AC アダプタの接続を再度ご確認ください。

【②設定画面を開く】（次ページ）へお進みください。

注意！

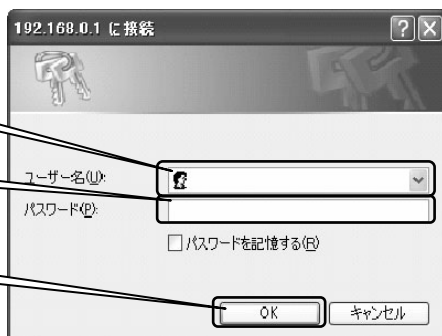
本製品を DHCP サーバとしてご利用になる場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

②設定画面を開く

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

42ページの【参考】で本製品LAN側のIPアドレスを変更した場合は、「http://192.168.254.1/」と入力してください。

2 以下の画面が表示されますので、何も入力せずに［OK］ボタンをクリックします。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。

［セットアップウィザード］を使用すると、簡単にインターネットの接続ができます。詳しくは、別紙のクイックガイドをご覧ください。

【③回線に接続する】（次ページ）へお進みください。

③回線に接続する

接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を選択し、必要なページのみをご覧ください。

●お使いの接続回線はどのタイプ？

下記の4種類の接続のうち、あてはまるタイプにチェックを付けてください。
タイプにより設定方法が異なります。

□ **Aタイプ**

「PPPoE認証接続」の場合・・・・・・・・・・・・・・・52ページ

プロバイダ例）フレッツシリーズ(NTT東日本、西日本)、
一般的なFTTH(光ファイバ)サービスなど

条件１　⇒PPPoE認証で接続する
条件２　⇒ブリッジタイプのモデムを使用している

□ **Bタイプ**

「IPアドレス自動取得接続」の場合・・・・・56ページ

プロバイダ例）一般的なCATV、アッカネットワークス、eAccess、
Yahoo!BBなど

条件１　⇒PPPoE認証で接続しない、または、PPPoE認証で接続するがルータタイプのモデムを使用している
条件２　⇒プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが、自動取得である

□ **Cタイプ**

「IPアドレス固定設定接続」の場合・・・・・59ページ

プロバイダ例）一部のCATVなど

条件　⇒プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが、固定である

●モデムの種類について

・ブリッジタイプ … 同時に接続可能なパソコンの台数は1台です。
お使いのパソコンにグローバルIPアドレスを自動的に割り当てます。
（LAN接続タイプとUSBタイプがありますが、USBタイプの場合は本製品を利用できません。）

・ルータタイプ … 複数のパソコンを接続することができます。
モデムにグローバルIPアドレスを1つ自動的に割り当てます。
パソコン側にはモデムのDHCP機能により、プライベートIPアドレスを割り振ることが可能です。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合

1 [WAN側設定]をクリックし、［PPPoE認証接続］を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、設定をしてください。

特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合（つづき）

デバイス情報	
ホスト名 （オプション）	プロバイダから指定されたホスト名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
ドメイン名 （オプション）	プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
PPPoE 認証情報	
接続アカウント	本製品では、3 つまで PPPoE アカウントを登録できます。通常は１のみ入力すれば使用できます。切り替えたいメインセッション番号(1,2,3)にチェックをつけてください。
接続ユーザ名	プロバイダから指定されたアカウント名を入力します。 （NTT フレッツシリーズの場合は、@ から後ろもすべて入力します。）
接続パスワード	プロバイダから指定された接続パスワードを入力します。 セキュリティのため、入力文字は“*”で表示されます。
パスワード再入力	再度パスワードを入力してください。 セキュリティのため、入力文字は“*”で表示されます。
サービス名 （オプション）	プロバイダから指定されたサービス名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
MTU 値	通常は変更しません。（初期値：1362）
IP アドレス固定設定	プロバイダから IP アドレスを固定で指定されている場合は、ここにチェックをつけ、指定されている IP アドレスを入力します。
DNS(ネーム) サーバ固定設定	プロバイダから DNS(ネーム)サーバアドレスを固定で指定されている場合は、ここにチェックをつけ、指定されているアドレスを入力します。（プライマリに１つめのアドレスを入力し、セカンダリに２つめのアドレスを入力します。）
自動切断	通信が無い時間が続いた場合に自動的に通信を切断する時間を決めます。0～999 分で指定できます。0 に設定すると自動切断しません。初期値：10 分
自動再接続	チェックをつけると、PPPoE 接続が切断された場合に、自動的に再接続します。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合（つづき）

3 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

「再起動しています」と表示され、本製品が再起動します。

その後、自動的にトップページに戻ります。

本体再起動中は、一時的にネットワークが切断された旨のメッセージが表示されますが、自動で再接続するため問題ありません。

本体の再起動は、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動（リスタート）を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

4 再起動後、［ステータス］→［接続情報］をクリックします。

通信できていることを確認します。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合（つづき）

●[PPPoE接続時間]に時間が表示されている場合

接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。
他のパソコンを本製品のLANポート（１～４）に接続してご使用ください。
４台以上のパソコンを接続する場合は、ハブをご用意ください。

●[PPPoE接続時間]に[(Not Connected)]と表示されている場合

[解放/切断]ボタンをクリックし、[取得/接続]ボタンをクリックしてみてください。
それでも[(Not Connected)]と表示されている場合は、プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度［接続ユーザ名］や［接続パスワード］を確認してください。

Bタイプ：「IPアドレス自動取得接続」の場合

1 [WAN側設定]をクリックし、[IPアドレス自動取得接続] を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、設定をしてください。

特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

Bタイプ：「IPアドレス自動取得接続」の場合（つづき）

デバイス情報	
ホスト名 （オプション）	プロバイダから指定されたホスト名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
ドメイン名 （オプション）	プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
DNS（ネーム）サーバ設定	
DNS（ネーム） サーバ	プロバイダからDNS（ネーム）サーバアドレスを自動で取得する場合は、[自動取得]にチェックをつけます。 プロバイダからDNS（ネーム）サーバアドレスを指定されている場合は、[固定設定]にチェックをつけ、指定されているアドレスを入力します。（プライマリに１つめのアドレスを入力し、セカンダリに２つめのアドレスを入力します。）

3 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

「再起動しています」と表示され、本製品が再起動します。

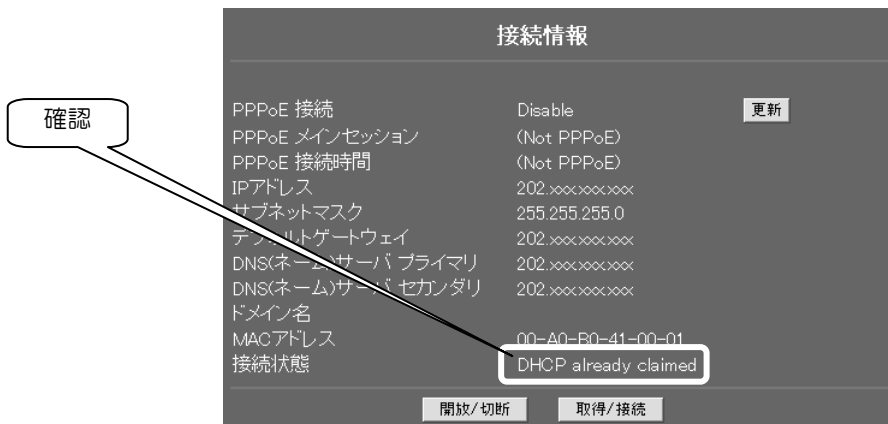
その後、自動的にトップページに戻ります。

本体再起動中は、一時的にネットワークが切断された旨のメッセージが表示されますが、自動で再接続するため問題ありません。

本体の再起動は、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動（リスタート）を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

Bタイプ：「IPアドレス自動取得接続」の場合（つづき）

4 再起動後、[ステータス]→[接続情報]をクリックします。

通信できていることを確認します。

●[接続状態]に[DHCP already claimed]と表示されている場合

接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

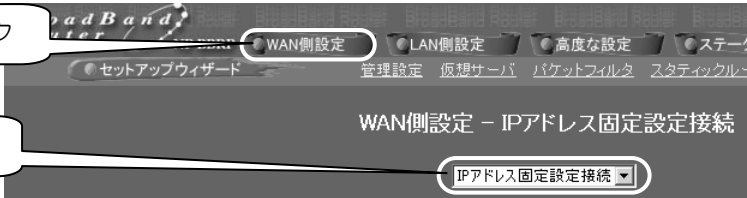
これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。
他のパソコンを本製品のLANポート(１～４)に接続してご使用ください。
４台以上のパソコンを接続する場合は、ハブをご用意ください。

●[接続状態]に[DHCP under claimed]と表示されている場合

[解放/切断]ボタンをクリックし、[取得/接続]ボタンをクリックしてみてください。
それでも[DHCP under claimed]と表示されている場合はプロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度、パソコン⇔本製品⇔モデムの接続を確認してください。

【困ったときには】の
110 ページを
ご参照ください。

Cタイプ：「IPアドレス固定設定接続」の場合

1 [WAN側設定]をクリックし、[IPアドレス固定設定接続]を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、設定をしてください。

特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

IPアドレス固定設定接続

デバイス情報

項目	設定	
ホスト名		(オプション)
ドメイン名		(オプション)

IPアドレス設定

項目	設定
IPアドレス	0 . 0 . 0 . 0
サブネットマスク	0 . 0 . 0 . 0
デフォルトゲートウェイ	0 . 0 . 0 . 0

DNS(ネーム)サーバ設定

項目	設定	
プライマリ	0 . 0 . 0 . 0	(オプション)
セカンダリ	0 . 0 . 0 . 0	(オプション)

Cタイプ：「IPアドレス固定設定接続」の場合（つづき）

デバイス情報	
ホスト名 （オプション）	プロバイダから指定されたホスト名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
ドメイン名 （オプション）	プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。 （指定がない場合は入力する必要はありません。）
IPアドレス設定	
IPアドレス	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
サブネット マスク	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
デフォルト ゲートウェイ	プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイを入力します。
DNS(ネーム)サーバ設定	
プライマリ (オプション)	プロバイダから指定されている場合は、DNS(ネーム)サーバアドレスを入力します。(1つめのアドレスを入力します。)
セカンダリ (オプション)	プロバイダから指定されている場合は、DNS(ネーム)サーバアドレスを入力します。(２つめのアドレスを入力します。)

3 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

「再起動しています」と表示され、本製品が再起動します。

その後、自動的にトップページに戻ります。

本体再起動中は、一時的にネットワークが切断された旨のメッセージが表示されますが、自動で再接続するため問題ありません。

本体の再起動は、設定した内容を本製品に反映後、本製品内部で再起動(リスタート)を行う処理です。パソコン側の再起動とは無関係です。

Cタイプ：「IPアドレス固定設定接続」の場合（つづき）

4 再起動後、[ステータス]→[接続情報]をクリックします。

通信できていることを確認します。

●[IPアドレス]が正しく表示されている場合

接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。
他のパソコンを本製品のLANポート（１～４）に接続してご使用ください。
４台以上のパソコンを接続する場合は、ハブをご用意ください。

●[IPアドレス]が正しく表示されていない場合

プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度、IPアドレスの設定を確認してください。

【困ったときには】の
110 ページを
ご参照ください。

その他の設定

設定画面メニューの各項目について説明します。

BroadBand Router NP-BBRP　WAN側設定　LAN側設定　高度な設定　ステータス　メンテナンス　I-O DATA
セットアップウィザード　管理設定　仮想サーバ　パケットフィルタ　スタティックルート　ダイナミックDNS

WAN側設定

WAN側の設定について説明します。

64ページ

LAN側設定

LAN側のIPアドレスやDHCPについて設定できます。

65ページ

高度な設定

パケットフィルタ（接続制限）や仮想サーバなどについて設定できます。

69ページ

ステータス

本製品の現在の通信状況などを確認できます。

83ページ

メンテナンス

メンテナンス

本製品のリセットやファームウェアのバージョンアップができます。

87ページ

WAN側設定

WAN側（インターネット側）の設定をします。
主にプロバイダの資料によって設定します。
詳しくは、【インターネットに接続する】（45ページ）
をご覧ください。

WAN側設定

WAN側設定 － PPPoE認証接続

PPPoE認証接続

デバイス情報
ホスト名 (オプション)
ドメイン名 (オプション)

PPPoE認証情報
接続アカウント メインセッション： 1 2 3
接続ユーザ名
接続パスワード *******
パスワード再入力 *******
サービス名 (オプション)

MTU値 1362
IPアドレス固定設定 0 . 0 . 0 . 0
DNS(ネーム)サーバ固定設定
プライマリ 0 . 0 . 0 . 0
セカンダリ 0 . 0 . 0 . 0

無通信状態が 10 分間 続いた場合は、自動切断します。
自動再接続

クリア 設定

LAN側設定

LAN側のIPアドレスやDHCPについて設定できます。

LAN側設定

LAN側設定

LAN側アドレス

IPアドレス 192 . 168 . 0 . 1

サブネットマスク 255 . 255 . 255 . 0

DHCP サーバ

LAN側のコンピュータにIPアドレスを割り当てしない

LAN側のコンピュータにIPアドレスを割り当てする

開始 IPアドレス 192 . 168 . 0 . 2

割り当てする数 32 (1~253)

割り当てを指定するIPアドレス 設定ページへ

WINS サーバ 0 . 0 . 0 . 0

IP Unnumbered 有効

開始 IPアドレス 0 . 0 . 0 . 0

サブネットマスク 0 . 0 . 0 . 0

クリア 設定

▼LAN側アドレス

項目	説明
IPアドレス	本製品のIPアドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを入力します。 初期値：255.255.255.0

▼DHCPサーバ

項目	説明
LAN側のコンピュータにIPアドレスを割り当てしない	チェックを付けると、LAN側に接続したパソコンにIPアドレスを自動で割り当てません。（本製品のDHCPサーバ機能を無効にします。）

項目	説明
LAN側のコンピュータにIPアドレスを割り当てする	チェックを付けると、LAN側に接続したパソコンにIPアドレスを自動で割り当てます。（本製品のDHCPサーバ機能を有効にします。） 下の項目を設定してください。
▼[LAN側のコンピュータにIPアドレスを割り当てする]にチェックを付けた場合	
開始IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを指定します。
割り当てする数	自動でIPアドレスを割り当てる数を設定します。 1～253で設定できます。
割り当てを指定するIPアドレス	IPアドレスを固定で割り当てたいパソコンがある場合は、[設定ページへ]ボタンをクリックして設定することができます。詳しくは、68ページをご覧ください。
WINSサーバ	WINSサーバを利用している場合は、WINSサーバアドレスを入力します。[WINSサーバ]を指定すると、DHCPでWINSのIPアドレスまで割り当てできます。

▼IP Unnumbered（詳しくは次ページをご覧ください。）

項目	説明
有効	チェックをつけると、[IP Unnumbered]の機能を有効にします。
開始IPアドレス	本製品のLAN側に設定するグローバルIPアドレスを設定します。通常はプロバイダから指定されたルータ用のIPアドレスを設定します。プロバイダから指定が無い場合は、割り当てられたグローバルIPアドレスの2番目のIPアドレスを設定します。詳しくは次ページの参考をご覧ください。
サブネットマスク	プロバイダに指定されたサブネットマスクを入力します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
設定	入力した項目を本製品に設定します。

IP Unnumberedについて

プロバイダから、複数のグローバルIPアドレスを割り当てられているパソコンを本製品に接続するための機能です。あらかじめプロバイダとの契約が必要です。

●アドレス設定例（アドレスは架空のものです）

プロバイダから指定されたグローバルIPアドレスが、[202.242.xxx.0]～[202.242.xxx.7]の8つの場合

・本製品の設定

-開始IPアドレス⇒プロバイダから指定されて無い場合[202.242.xxx.1]

-サブネットマスク⇒プロバイダから指定されているサブネットマスク

・グローバルIPを割り当てるパソコン（サーバ）の設定

-IPアドレス⇒ [202.242.xxx.2]、[202.242.xxx.3]、[202.242.xxx.4]、[202.242.xxx.5]、[202.242.xxx.6]

-サブネットマスク⇒プロバイダから指定されているサブネットマスク（例：255.255.255.248）

-デフォルトゲートウェイ⇒本製品に割り当てたIPアドレス[202.242.xxx.1]

・ローカルIPを割り当てるパソコンの設定

-IPアドレス⇒ 任意のIPアドレス（例：192.168.0.2）

-サブネットマスク⇒任意のサブネットマスク（例：255.255.255.0）

-デフォルトゲートウェイ

⇒本製品のLAN側ローカルIPアドレス[192.168.0.1]（初期値）

本製品の利用に関わらず、複数のグローバル IP アドレスが割り当てられている場合は、割り当てられている連続したグローバル IP アドレスのうち３つは、パソコンには使用できません。

例）[202.242.xxx.0]～[202.242.xxx.7]の 8 つのグローバル IP アドレスが割り当てられている場合、下記の 3 つはパソコンには使用できません。

[202.242.xxx.0]（システム予約用）
[202.242.xxx.1]（本製品に割り当てる IP アドレス）
[202.242.xxx.7]（システム予約用）

ここで使用しているIPアドレスは一例です。この通りに設定しても実際には使用できませんのでご注意ください。

DHCPサーバ⇒割り当てを設定するIPアドレス

[LAN側設定]→[割り当てを指定するIPアドレス]の[設定ページへ]ボタンをクリックすると、MACアドレスに対してIPアドレスを予約することで、固定のIPアドレス割り当てることができます。

●MACアドレスにIPアドレスを割り当てる

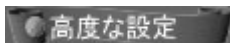
1. [IPアドレス]に、固定で指定するIPアドレスを入力します。
2. [MACアドレス]にIPアドレス指定するパソコン(LANアダプタ)のMACアドレスを入力します。
3. [追加]ボタンをクリックします。
   下のリストに登録されていることを確認してください。

●登録した内容を削除する

1. [番号]でリストから削除する番号を選択します。
2. [削除]ボタンをクリックすると、削除されます。
   [全削除]ボタンをクリックするとリストすべてが削除されます。

高度な設定

[管理設定](下記)、[仮想サーバ](71ページ)、
[DMZホスト](74ページ)、[パケットフィルタ](75ページ)、
[スタティックルート](79ページ)、
[ダイナミックDNS](81ページ)の各設定ができます。

高度な設定

管理設定

管理設定

ファームウェア バージョン：

管理者パスワードの変更
新しいパスワード
パスワード再入力

設定可能端末の制限　有効
端末のMACアドレス 1　00 - 00 - 00 - 00 - 00 - 00
端末のMACアドレス 2　00 - 00 - 00 - 00 - 00 - 00

WAN側からのリクエストブロック
セキュアホスト(WAN側からの設定を許可)

設定ポート番号の変更　有効
HTTP(Web)設定ポート番号　80

クリア　設定

▼ファームウェアバージョン

説明
現在のファームウェアのバージョンです。

▼管理者パスワード変更

項目	説明
新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。半角英数6文字まで入力できます。
パスワード再入力	確認のため、[新しいパスワード]に入力したパスワードと同じものを入力してください。

▼設定可能端末の制限

項目	説明
有効	チェックをつけると、下記に設定したMACアドレスのパソコンのみが本製品を設定できます。
端末のMACアドレス１（２）	本製品の設定を許可するパソコン（LANアダプタ）のMACアドレスを入力します。
WAN側からのリクエストブロック	チェックをつけると、WAN側（インターネット）側から本製品のIPアドレスを検索できなくなり、セキュリティが向上します。
セキュアホスト (WAN側からの設定を許可)	チェックをつけると、WAN側から本製品の設定画面にアクセスすることを許可します。インターネットからの不正アクセスの心配がある場合は、チェックしないことをおすすめします。（[WAN側からのリクエストブロック]にチェックをつけると、この項目にはチェックできません。）

▼設定ポート番号の変更

項目	説明
有効	チェックをつけると、[設定ポート番号変更]を有効にします。設定ポート番号変更は、WAN/LAN側両方から設定に有効となります。
HTTP(WEB)設定ポート番号	設定画面にアクセスする場合のポート番号を変更できます。（通常は変更する必要はありません。） ポートを変更後、設定画面にアクセスする場合は、webブラウザで下記のように入力してください。 例）「本製品のIPアドレス：192.168.0.1、 ポート番号8080に設定する場合」 192.168.0.1:8080

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
設定	入力した項目を本製品に設定します。

仮想サーバ

Web サーバなどを自設する場合に、該当のサービスポートとプライベートIPアドレスを設定して、使用することができます。

▼仮想サーバ

▼仮想サーバ

項目	説明
指定方法	ポート名：ポート名とサーバIPアドレスを指定するだけで、仮想サーバを利用できます。 ポート番号：転送するパケットをポート番号で指定する場合に設定します。
ポート名	ポート名を指定する場合はこちらから選択します。 詳しくは次ページの参考をご覧ください。
プロトコル	TCP：TCPポートを指定します。 UDP：UDPポートを指定します。

項目	説明
指定方法	単一：1個のポート番号を指定します。 範囲：ポート番号を範囲で指定します。
ポート番号	[単一]で指定する場合は、左の枠にポート番号を入力します。(右の枠は空白のまま) [範囲]で指定する場合は、左の枠に最初のポート番号、右の枠に最後のポート番号を入力します。 ※TCP/UDPで同じポート番号を設定する場合は、それぞれ設定してください。
サーバIPアドレス	インターネット側に公開するIPアドレスを設定します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
設定	入力した項目を本製品に設定します。

▼仮想サーバリスト

項目	説明
リスト	現在設定しているリストを表示します。

ボタン類	説明
全削除	リストをすべて削除します。(設定を解除します。)
削除	[番号]で選んだもののみを削除します。
番号	削除するリスト上の番号を選択します。

《仮想サーバ設定例》

●ポート名で設定する場合（WEBサーバを公開するなど）

①[指定方法]から、[ポート名]にチェックをつけます。

②[ポート名]から[HTTP（TCP80）]を選択します。

③[サーバIPアドレス]に公開するサーバのIPアドレスを入力します。

④[追加]ボタンをクリックします。

⑤[仮想サーバリスト]に追加されていることを確認します。

以上で設定は完了です。

《仮想サーバ設定例》

●ポート番号で設定する場合

①[指定方法]から、[ポート番号]にチェックをつけます。
②[プロトコル]を選択します。
③[指定方法」でポート番号を[単一]または[範囲」で指定するかを決めます。
④[ポート番号」でポート番号を入力します。
　[単一]の場合は、左の枠に入力します。
　[範囲」の場合は、左の枠に最初のポート番号、右の枠に最後のポート番号を入力します。
⑤[サーバIPアドレス]に公開するサーバのIPアドレスを入力します。
⑥[追加]ボタンをクリックします。
⑦[仮想サーバリスト]に追加されていることを確認します。

以上で設定は完了です。

以下は選択できるポート名です。

FTP（TCP 21）、 TELNET（TCP 23）、 POP3（TCP 110）、
SMTP（TCP 25,TCP 113）、 DNS（UDP 53）、 HTTP（TCP 80）、
HTTP8080（TCP 8080）、 HTTPS（TCP 443）、 NEWS（TCP 119）、
GOPHER（TCP 70）、 NetMeeting（TCP 1503,TCP 1720）、
IPhone5.0（TCP 22555）、 ACE（TCP 47624,2300-2400;UDP 2300-2400）
Cu-SeeMe（TCP 7648;UDP 7648;24032）、
PCAnyWhere（UDP 22,5632;TCP 5631,65301）、 MSN Phone（UDP 6901）、
IPSec Pass Through（UDP 500）、 PPTP Pass Through（TCP 1723）

DMZホスト

インターネット側（WAN側）から本製品に接続されたLAN側のパソコンにアクセスするための機能です。

▼DMZホスト

項目	説明
WAN側IPアドレス	本製品のWAN側（インターネット側）のIPアドレスを入力します。（確認方法は、【ステータス】→【接続情報】(83ページ)をご覧ください。）
LAN側IPアドレス	DMZ機能を利用したいパソコンのIPアドレスを入力します。指定するパソコンのIPアドレスは固定に設定してください。

▼DMZリスト

項目	説明
リスト	現在設定しているリストを表示します。DMZホストは複数設定できますが、実際に働くのは現在のWAN側のIPアドレスと一致したもののみです。

ボタン類	説明
全削除	リストをすべて削除します。(設定を解除します。)
削除	[番号]で選んだもののみを削除します。
番号	削除するリスト上の番号を選択します。

パケットフィルタ

本製品への接続の許可/拒否を設定できます。[MACアドレスフィルタ][IPアドレスフィルタ][TCP/UDPポートフィルタ]あわせて24件まで登録できます。

▼MACアドレスフィルタ

本製品に接続するLAN→WAN方向のパケットを、接続元のMACアドレスにて接続制限するときに使用します。

項目	説明
処理方法	拒否：登録したMACアドレスのみ接続を拒否します。 　　　それ以外の接続は許可します。 許可：登録したMACアドレスのみ接続を許可します。 　　　それ以外の接続は拒否します。
MACアドレス	処理するMACアドレスを入力します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
追加	入力した項目をリストに追加します。 リストに追加された時点で、そのフィルタは有効になります。

MACアドレスフィルタの処理方法[拒否][許可]の混在はできません。どちらか一方のみに設定可能です。

▼IPアドレスフィルタ

本製品に接続するパケットを、接続元のIPアドレスにて接続制限するときに使用します。

項目	説明
処理方法	拒否：登録したIPアドレスのみ接続を拒否します。 　　　それ以外の接続は許可します。 許可：登録したIPアドレスのみ接続を許可します。 　　　それ以外の接続は拒否します。
指定方法	単一：1個のIPアドレスを指定します。 範囲：IPアドレスを範囲で指定します。
IPアドレス	[単一]で指定する場合は、[開始]にIPアドレスを入力します。 [範囲]で指定する場合は、[開始]に最初のIPアドレス、[終了]に最後のIPアドレスを入力します。
方向	LAN側：LANから外部に出て行くパケットを制限します。 WAN側：外部からLANに入るパケットを制限します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
追加	入力した項目をリストに追加します。 リストに追加された時点で、そのフィルタは有効になります。

IPアドレスフィルタの処理方法[拒否][許可]の混在はできません。どちらか一方のみに設定可能です。

▼TCP/UDPポートフィルタ

本製品に接続するLAN→WAN方向のパケットを、ポートにて接続制限するときに使用します。

項目	説明
処理方法	拒否：登録したTCP/UDPポートのみ接続を拒否します。 　　　それ以外の接続は許可します。 許可：登録したTCP/UDPポートのみ接続を許可します。 　　　それ以外の接続は拒否します。
指定方法	単一：1個のポート番号を指定します。 範囲：ポート番号を範囲で指定します。
ポート番号	[単一]で指定する場合は、左の枠にポート番号を入力します。（右の枠は空白） [範囲]で指定する場合は、左の枠に最初のポート番号、右の枠に最後のポート番号を入力します。
プロトコル	TCP：TCPポートを指定します。 UDP：UDPポートを指定します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
設定	入力した項目を本製品に設定します。 リストに追加された時点で、そのフィルタは有効になります。

注意！

TCP/UDPポートフィルタの処理方法[拒否][許可]の混在はできません。どちらか一方のみに設定可能です。

▼フィルタリスト

項目	説明
リスト	現在設定しているリストを表示します。

ボタン類	説明
全削除	リストをすべて削除します。(設定を解除します。)
削除	[番号]で選んだもののみを削除します。
番号	削除するリスト上の番号を選択します。

スタティックルート

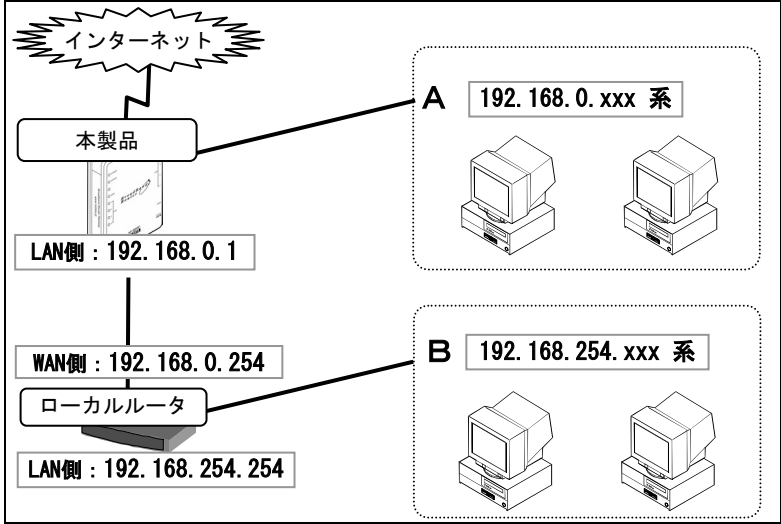
本製品がデータを宛先となるネットワークにパケットを転送するときの静的ルーティング情報を設定します。

▼スタティックルート機能

項目	説明
スタティックルート1（2）	有効にするスタティックルートにチェックを付けます。

項目	説明
宛先ネットワークホスト	宛先のIPアドレスまたはネットワークアドレスを入力します。
サブネットマスク	宛先のサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイ	宛先へのゲートウェイアドレスを入力します。

ボタン類	説明
クリア	入力した項目を消去します。
追加	入力した項目をリストに追加します。

《ルーティングの設定例》
図(四角内の値はIPアドレス)のような環境で「ネットワークＡ」と「ネットワークＢ」で通信する場合の設定例です。（ネットワークＢからインターネットに接続する場合など）

本製品の[スタティックルート]設定でローカルルータが宛先となるように設定し、ローカルルータ側では本製品が宛先となるように設定します。

	本製品で設定する宛先の値	ローカルルータで設定する宛先の値
宛先ネットワークホスト	192.168.254.0	192.168.0.0
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.254	192.168.0.1

※ローカルルータ側の設定については、ローカルルータの取扱説明書をご覧ください。

ダイナミックDNS

ダイナミックDNSとは、仮想サーバなどを公開する場合に、IPアドレスを指定せずにドメイン名で指定できるようにする機能です。接続するたびにIPアドレスが変わってしまう場合でも、ダイナミックDNSを利用すれば、常にドメイン名でアクセスできます。下記の手順にしたがって設定してください。
※ダイナミックDNSサービスに関しては、弊社ダイナミックDNSサービス
iobb.netをご利用いただく場合のみサポート対象とさせていただきます。

1 ダイナミックDNSサービスのユーザー登録を行います。

弊社ダイナミックDNSサービス⇒ **http://iobb.net/**

ダイナミックDNSサービス
iobb.net

2 本製品の設定画面で、[高度な設定]→[ダイナミックDNS]を開きます。

3 下記の各設定をします。

項目	説明
ダイナミックDNS機能	チェックを付けるとダイナミックDNS機能が有効になります。[IPアドレス強制更新]ボタンをクリックすると、ダイナミックDNSサーバにIPアドレスの更新を通知します。

項目	説明
DNSアカウント	ダイナミックDNSサーバに登録したドメイン名を入力します。右のプルダウンメニューでは、複数のダイナミックDNSサービスがある場合に、使用するサービスを選択できます。
ユーザー名	ダイナミックDNSサーバに登録したユーザー名を入力します。（iobb.netをご利用になる場合は、iobb.netにお問い合わせください。）
パスワード	ダイナミックDNSサーバに登録したパスワードを入力します。（iobb.netをご利用になる場合は、iobb.netにお問い合わせください。）
ワイルドカード有効※	ドメインの前に好きな文字を付けられる仕組みです。 利用するにはダイナミックDNSサービス側が対応している必要があります。 [有効]にチェックを入れると取得しているホスト名のサブドメインにワイルドカードの使用が可能となります。
メールエクスチェンジャ※	ドメイン宛てのメールを転送する場合に、転送先メールサーバのホスト名を入力します。必要ない場合は空欄にします。[MXのバックアップ]にチェックを付けると、[メールエクスチェンジャ]に入力したホストをバックアップ用メールサーバに登録します。
ステータス※	ダイナミックDNSサーバの応答メッセージを表示します。[更新]ボタンをクリックすると、最新の情報を表示します。

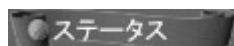
※弊社ダイナミックDNSサービスiobb.netでは対応しておりません。

4 [設定]ボタンをクリックして、画面の指示にしたがってください。

これで設定できました。

ステータス

[接続情報](下記)、[セッションリスト](85ページ)、[DHCPリスト](86ページ)の情報を確認できます。

ステータス

接続情報

接続情報

PPPoE 接続	Enable	更新
PPPoE メインセッション	1	
PPPoE 接続時間	00:00:30	
IPアドレス	202.xxx.xxx.xxx	
サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	202.xxx.xxx.xxx	
DNS(ネーム)サーバ プライマリ	202.xxx.xxx.xxx	
DNS(ネーム)サーバ セカンダリ	202.xxx.xxx.xxx	
ドメイン名		
MACアドレス	00-A0-B0-41-00-01	
接続状態	Connect successfully	

開放/切断　取得/接続

項目	説明
PPPoE接続	Enable：PPPoEで接続しています。 Disable：PPPoEを利用しない接続です。
PPPoE メインセッション	現在使用しているPPPoE接続プロファイル番号です。 PPPoEを利用しない接続の場合は、(Not PPPoE)と表示されます。
PPPoE接続時間	PPPoEで接続開始してからの時間を表示します。 PPPoEを利用しない接続の場合は、(Not PPPoE)と表示されます。
IPアドレス	本製品WAN側のIPアドレスです。
サブネットマスク	本製品WAN側のサブネットマスクです。
デフォルトゲートウェイ	本製品WAN側のデフォルトゲートウェイです。

項目	説明
DNS(ネーム)サーバプライマリ	１つめのDNS(ネーム)サーバアドレスです。
DNS(ネーム)サーバセカンダリ	２つめのDNS(ネーム)サーバアドレスです。
ドメイン名	現在のドメイン名です。
MACアドレス	本製品のMACアドレスです。
接続状態	現在の接続状態です。

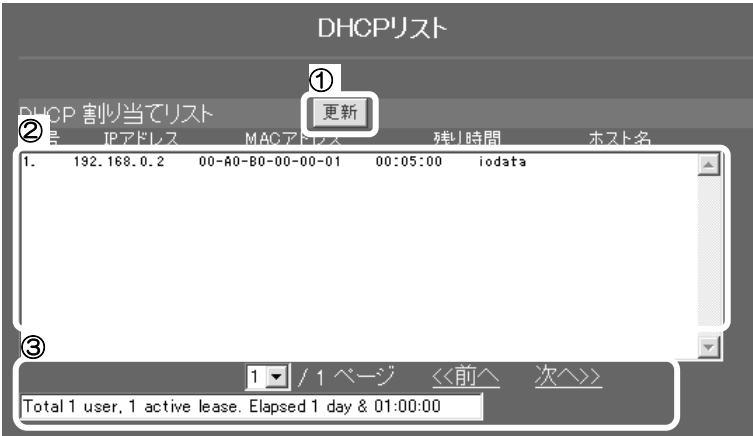
ボタン類	説明
更新	情報を更新します。
解放/切断	PPPoE接続の場合：セッションの切断 PPPoE接続以外の場合：DHCPによるIPアドレスの解放
取得/接続	PPPoE接続の場合：セッションの接続 PPPoE接続以外の場合：DHCPによるIPアドレスの取得

セッションリスト

本製品のセッションなどの情報を表示します。（最大253セッション）

項目	説明
①	[TCP]と[UDP]から選択します。 [更新]ボタンをクリックすると、リストを更新します。
②	現在のセッションリストです。 左から、[番号] [TCP/UDP] [LAN側IPアドレス] [LAN側ポート] [変換ポート] [WAN側IPアドレス] [WAN側ポート] [接続時間]となります。
③	数字を選択すると、リストのページを切り替えることができます。[<<前へ]で前のページ、[次へ>>]で次のページに切り替えます。 下のテキスト部分は、主にアクティブのセッション数が表示されます。

DHCPリスト

本製品のDHCP機能で割り当てているIPアドレスなどの情報を表示します。

項目	説明
①	[更新]ボタンをクリックすると、リストを更新します。
②	現在のDHCPリストです。 左から、[番号][IPアドレス][MACアドレス][残り時間][ホスト名]となります。
③	数字を選択すると、リストのページを切り替えることができます。[<<前へ]で前のページ、[次へ>>]で次のページに切り替えます。 下のテキスト部分は、主にアクティブのDHCP割り当て数が表示されます。

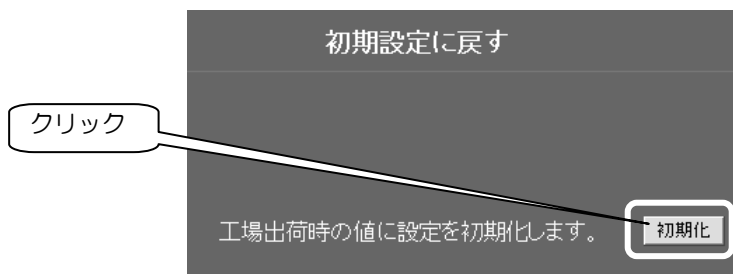
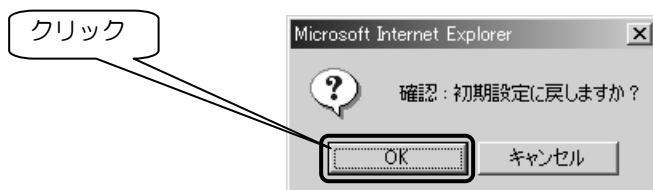
メンテナンス

[初期設定に戻す](下記)、
[設定の保存と復元](88ページ)、
[ファームウェアの更新](90ページ)ができます。

初期設定に戻す

本製品を初期設定に戻します。

初期化を実行すると、すべての設定が出荷時状態に戻ります。初期化前に次ページで設定の保存をしておくことをおすすめします。

1 [初期化]ボタンをクリックします。

2 [OK]ボタンをクリックします。

これで初期化できました。

設定の保存と復元

現在の設定を保存し、あとでファイルを読み込むだけで現在の設定を復元できます。

▼現在の設定を保存する

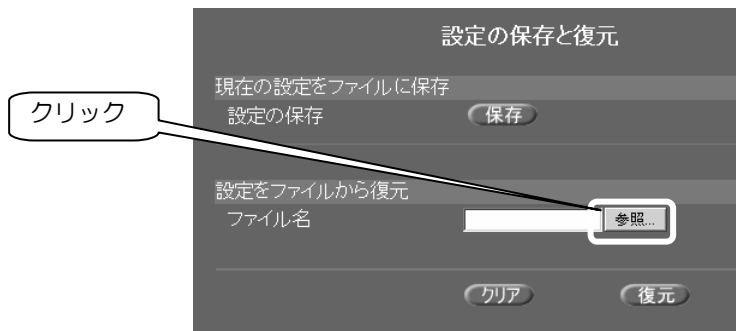
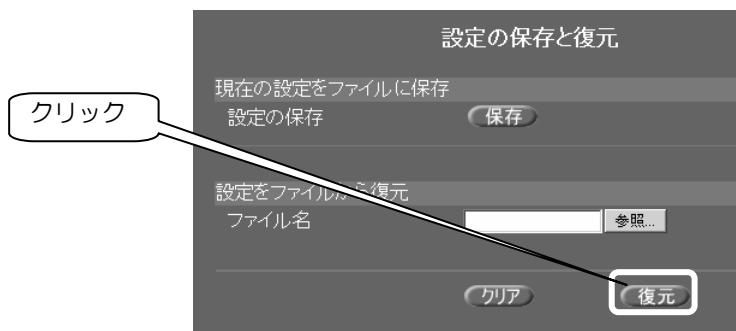
1 [保存]ボタンをクリックすると、保存先とファイル名を指定します。

⇒設定が保存されます。

（ファイル名は初期状態で、config.savとなります。）

これで保存できました。

▼保存した設定ファイルを読み込む

1 [参照]ボタンをクリックして、読み込むファイルを選択します。

2 [復元]ボタンをクリックします。

これで復元できました。

ファームウェア更新

弊社ホームページで本製品のファームウェアをダウンロードしたときに、実行します。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（**http://www.iodata.jp/lib/**）から、最新のファームウェアファイルを入手します。

2 安全に更新するために、以下の作業を行ってください。
・本製品の設定をするパソコン以外のパソコンのケーブルを外します。
・WANポートのケーブルを外します。
・パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 ［メンテナンス］の［ファームウェア更新］をクリックします。

4 以下の画面が表示されますので、［参照］ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、［更新実行］ボタンをクリックします。更新画面が表示されますので、２０秒ほどそのままお待ちください。
⇒更新が正常に終了すると、本製品は自動で再起動します。
　自動でトップページに戻ったら、更新完了です。

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。故障の原因となります。

Windows(MSN) Messengerについて

ここでは、Windows MessengerやMSN Messengerを利用する方法やUPnP設定について説明します。

Windows(MSN) Messengerを利用する

Windows（MSN） Messengerの確認方法を説明します。

☞ 92ページ

UPnPを設定する

UPnPの設定/確認方法を説明します。

☞ 93ページ

Windows(MSN) Messengerを利用する

本製品ではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能を使用し、下記に対応しております。

●Windows XPのWindows Messenger (Ver.4.6以上)
●Windows XPのMSN Messenger (Ver.5.0以上)
※UPnPを使用するときは、最新のアプリケーションをご利用ください。
※Windows MeのMSN Messengerはサポート対象外です。

UPnP機能を有効にして、Windows(MSN) Messengerを利用すると、下記がお楽しみいただけます。

「インスタントメッセージの送信」
「音声チャット」
「ビデオチャット」
「アプリケーションの共有」
「ホワイトボード」
「リモートアシスタンス」
「ファイルまたは写真の送信」

■以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messenger、MSN Messengerの一部機能しかご利用いただけませんのでご注意ください。

- プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合
- ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合

■Windows Messenger、MSN Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

UPnPを設定する

本製品は初期設定でUPnP機能が常時有効になっていますが、Windowsで下記設定をする必要があります。

●UPnPを設定する

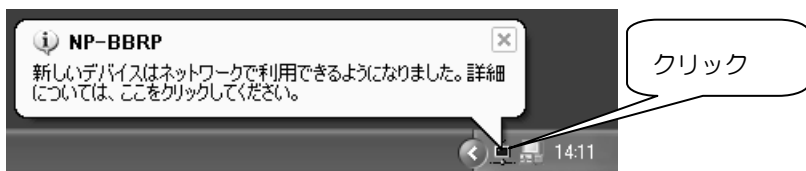
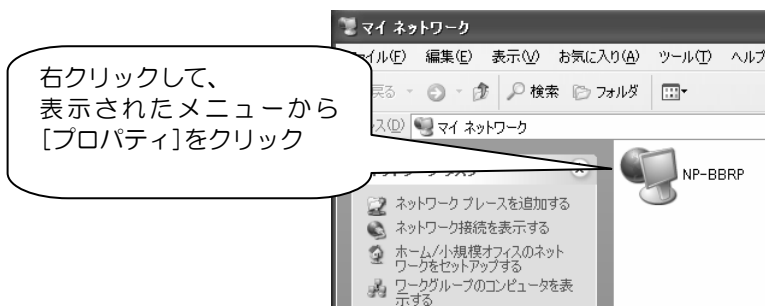
①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。
②[プログラムの追加と削除]を開き、[Windowsコンポーネントの追加と削除]を開きます。
③[ネットワークサービス]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
④[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。
　また、Windows XP SP1の場合は、[インターネットゲートウェイ…]にもチェックがついていることを確認します。

▼Windows XP SP1の画面例

⑤「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので[次へ]ボタンをクリックします。
⑥ウィザードが完了したら[完了]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

●UPnPを確認する

①UPnP機能が有効になると、ネットワーク上の本製品が検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。

②[NP-BBRP]アイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

③下の画面が表示されていたら、正常に本製品が認識されています。

※正常に認識されていない場合は、【●UPnPを設定する】(前ページ)をご覧の上、設定をご確認ください。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 96ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 97ページ

TCP/IPの基礎知識

IPアドレスの設定例です。

☞ 112ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 118ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 125ページ

アフターサービス

お問い合わせ先や修理のご案内です。

☞ 127ページ

出荷時設定に戻す

本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。
出荷時設定に戻したら、再度はじめから設定し直してください。

●本製品の[RESET]スイッチで戻す

1 本製品を使っていないことを確認し、ACアダプタやLANケーブルをすべて取り外します。

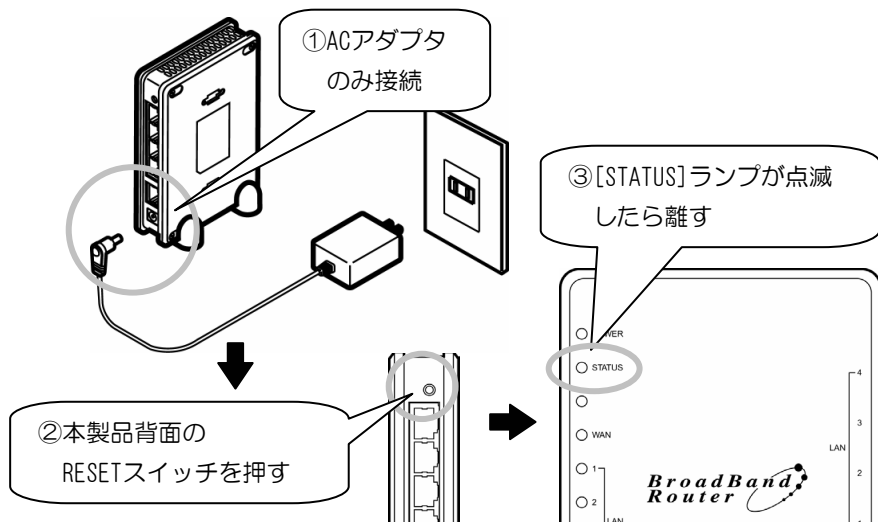
2 下記の手順にしたがってください。

①ACアダプタのみを接続し、[POWER]ランプが点灯したことを確認します。

②[RESET]スイッチを細いピンなどで、４秒以上押しつづけます。

③[STATUS]ランプが点滅したら、ピンを離します。

⇒本製品が再起動します。

以上で、出荷時設定に戻りました。

●設定画面で戻す

設定画面で行います。詳しくは【初期設定に戻す】87ページをご覧ください。

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

▼設定時のトラブル

状態	参照ページ
ランプが点灯しない	99
設定画面が表示されない	99
パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない	105
パスワードを入力しても、設定画面が起動しない	106
パスワードを忘れてしまった	106
PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい	106
LAN 側（LAN コネクタ［1］～［4］側）の IP アドレスを変更したら接続できなくなった	106
設定画面で文字が入力できない	107
［TCP/IP］が表示されていない　（Windows Me/98/95 の場合）	107

▼インターネット接続時のトラブル

状態	参照ページ
PPPoE 認証でインターネットに接続できない	109
IP アドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない（[IP アドレス] が取得できない）	110
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	111

ランプが点灯しない

原因１	《[POWER]ランプが点灯しない場合》 AC アダプタを取り付けていない
対処	付属の AC アダプタを取り付けてください。AC アダプタは必ず付属のものをご使用ください。

原因２	《[WAN]ランプが点灯しない場合》 [WAN]ポートに取り付けたモデムの LAN ケーブルが正しく接続できていない、モデムの電源が入っていない
対処	モデムの接続とモデムの電源が入っていることをご確認ください。

原因３	《[LAN]ランプ(1～4)が点灯しない場合》 [LAN]ポート(1～4)に取り付けたパソコンの LAN ケーブルが正しく接続できていない、パソコンの電源が入っていない
対処	パソコンの接続と電源が入っていることをご確認ください。

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか確認してください。(パソコンを接続しているポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因２	設定用パソコンの IP アドレスが自動取得になっていない。
対処	【③IP アドレスを設定する】(25 ページ)を参照して、IP アドレスの設定を確認してください。

原因３	セキュリティ関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

原因４	【42ページの参考で本製品のIPアドレスを変更した場合】 IPアドレスが正常に取得できていない。
対処	現在設定用パソコンで取得しているIPアドレスをいったん解放し、再取得します。次ページの参考の手順にしたがってください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000/NT 4.0の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。

③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスを再取得します。

④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。

→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98/95の場合》

①WINIPCFGを起動します。

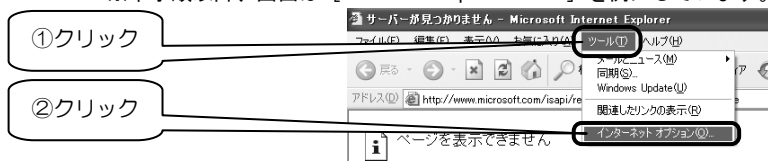
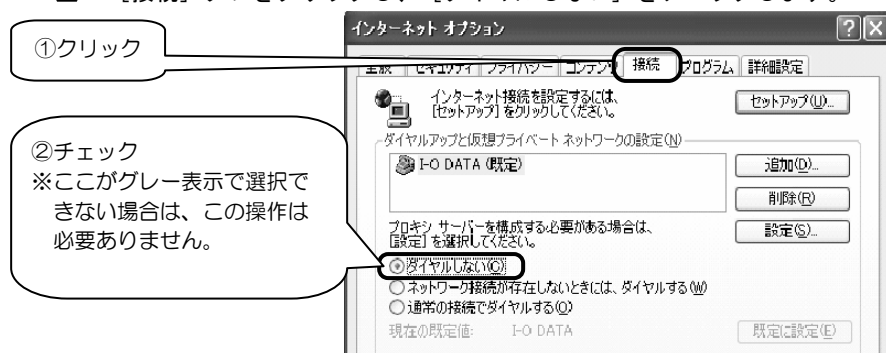
［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFGと入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

原因５	Web ブラウザがダイヤルアップする設定になっている。
対処	下記の手順にしたがってください。

1 ［Internet Explorer］画面の［ツール］メニューの
［インターネット オプション］をクリックします。

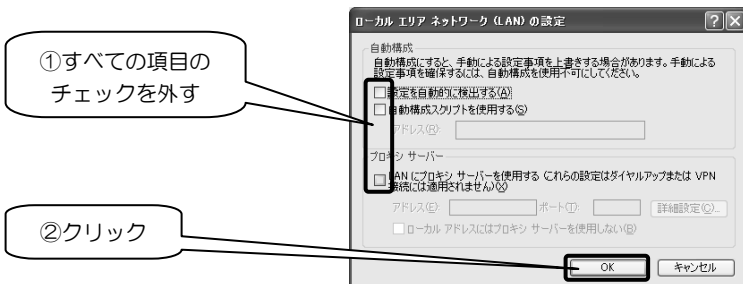
※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 ［接続］タブをクリックし、［ダイヤルしない］をチェックします。

これで設定は完了です。

原因６	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。 下記の各ページをご覧ください。 Windows の場合⇒次ページ Mac OS X の場合⇒103 ページ Mac OS(Classic)の場合⇒104 ページ

Windowsでプロキシの設定をする

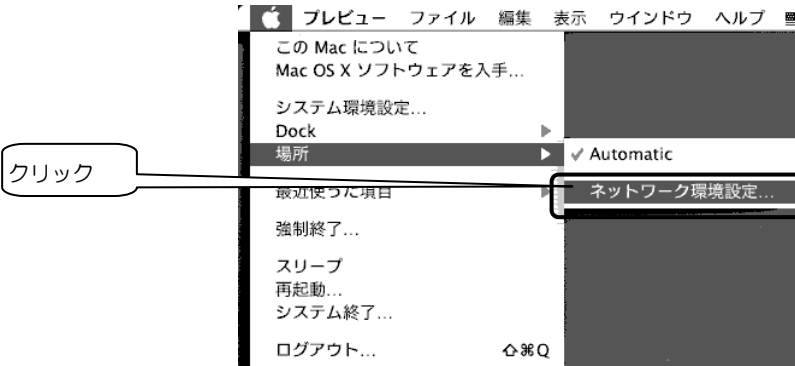
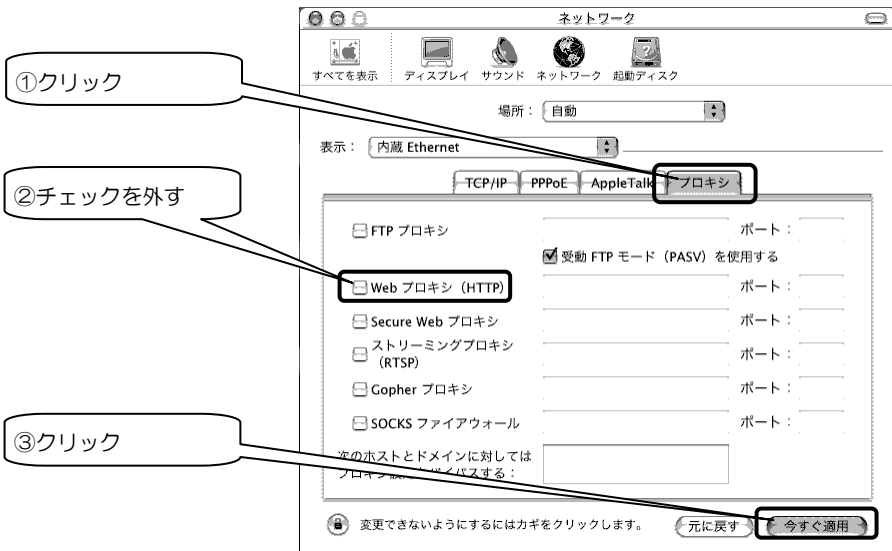
1 Internet Explorerを起動し、[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。
※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 [接続]タブをクリックし、[LANの設定]ボタンをクリックします。

3 下記の設定を行います。

4 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

これで設定は完了です。

Mac OS Xでプロキシの設定をする

1 [アップルメニュー]→[場所]→[ネットワーク環境設定...]を選択します。

2 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。

3 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

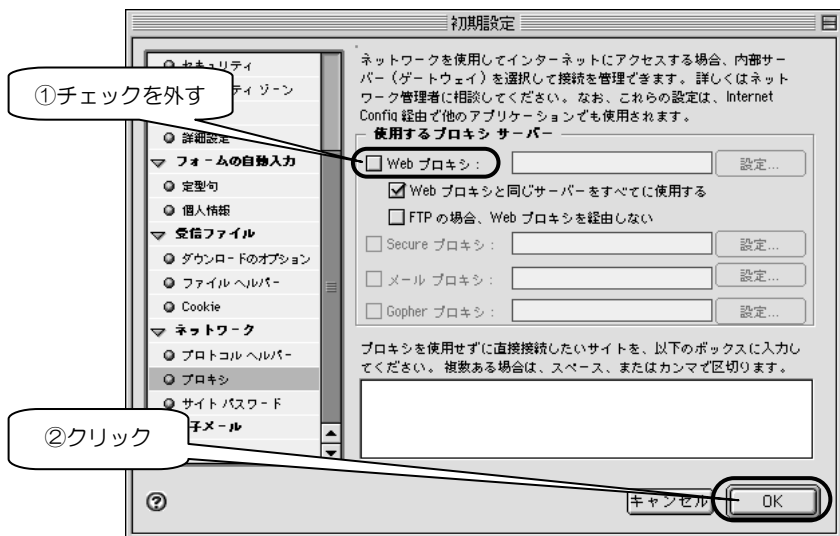
これで設定は完了です。

Mac OS (Classic)でプロキシの設定をする

1 Internet Explorerを起動します。

2 ［編集］→［初期設定...］を選択します。

3 ［▽ネットワーク］の［プロキシ］を選択します。

4 以下の設定を行います。

これで設定は完了です。

パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある。
対処	以下の対処があります。 ・100 ページ【参考】のアドレスの解放と更新を行う。 ・LAN アダプタのドライバを最新のものへ更新する。 （ドライバの更新方法については LAN アダプタメーカへお問い合わせください。） ・パソコンとの間にスイッチングハブが入っている場合は、スイッチングハブを初期化する。 （スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブメーカへお問い合わせください。） ・本製品を再起動する。（AC アダプタを抜き差ししてください。） ・FTTH/ADSL/CATV モデムを初期化（リセット）する。 （モデムの初期化（リセット）方法についてはモデムメーカへお問い合わせください。） これらの方法でも DHCP クライアントとして IP アドレスなどを取得することができない場合は、固定（手入力）でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 **IP アドレス：192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス** **サブネットマスク：255.255.255.0** **デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：192.168.0.1**

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因	パスワードが間違っている。
対処	正しいパスワードを入力してください。(大/小文字もご確認ください。) パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】(下記) をご覧ください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】(96 ページ) で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定に戻ります。(未入力) また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい

対処	設定メニューから [ステータス] を選択します。 PPPoE で取得したグローバル IP アドレス ([IP アドレス])、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバル IP アドレス ([デフォルトゲートウェイ])、DNS(ネーム)サーバーアドレスを確認する事ができます。

LAN 側 (LAN コネクタ [1] ～ [4] 側) の IP アドレスを変更したら接続できなくなった

対処	**・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合** ①パソコンの IP アドレスには、新しく設定した (変更した) ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 ②パソコンのゲートウェイ (ルータアドレス) と DNS アドレスには、新しく設定した (変更した) ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 **・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合** パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。(【IP アドレスの解放と更新方法】(100 ページ) 参照)

設定画面で文字が入力できない

原因１	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因２	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字（半角英数字）かを確認してから入力してください。

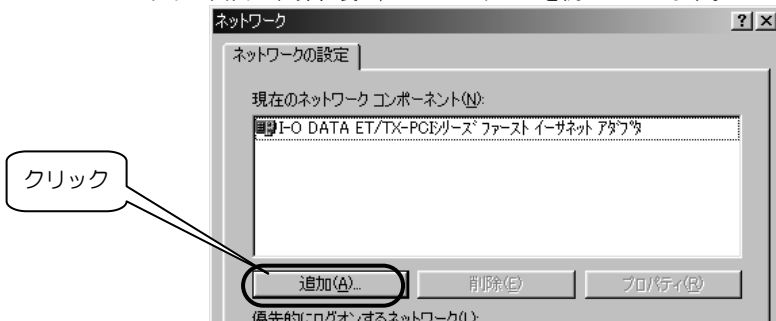
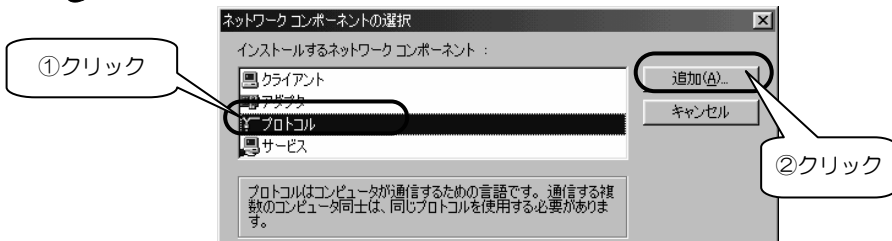
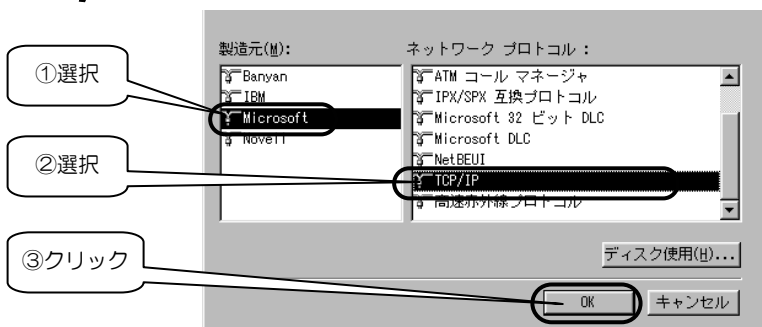
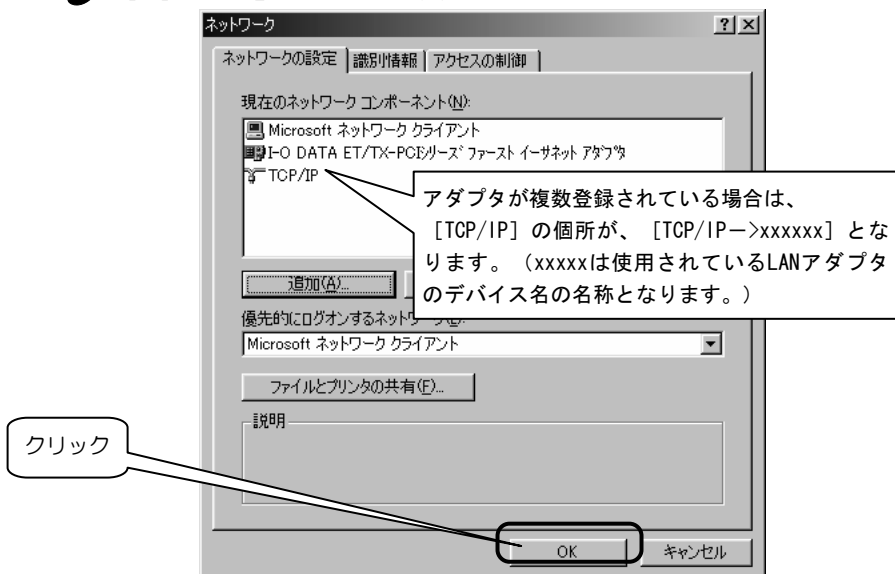
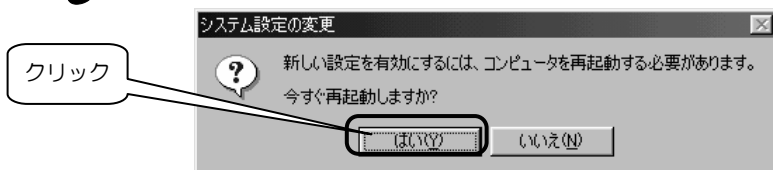
[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98/95 の場合）

原因	TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順で TCP/IP をインストールします。

1 [ネットワーク]を起動します。

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

PPPoE 認証でインターネットに接続できない

原因１	モデム(ONU)が正しく接続されていない。
対処	本製品の[WAN]ランプが点灯していることをご確認ください。 点灯していない場合は、モデム(ONU)の接続と電源が入っていることをご確認ください。 モデムのファームウェアをアップデートできる場合は、ファームウェアアップデートしてください。方法については、モデムの取扱説明書をご覧ください。

原因２	［WAN］側で PPPoE 接続の設定が有効になっていない。（PPPoE の認証に失敗している。）
対処	PPPoE 接続の設定を確認してください。［WAN 側設定］→［PPPoE 認証接続設定］で［接続ユーザー名］と［接続パスワード］を再度入力してください。（接続ユーザー名は、NTT フレッツシリーズの場合、@ から後ろもすべて入力します。）

原因３	本製品に接続したパソコンの TCP/IP 設定に誤りがある。
対処	パソコンの TCP/IP 設定をご確認ください。 ⇒本製品の DHCP 機能を利用して、IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。（100 ページの【参考】をご覧ください。） ⇒IP アドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定した IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバのアドレスを確認してください。

原因５	ADSL モデム（ブリッジタイプ）を使用するが、PPPoE 認証を使用しないプロバイダである。
対処	PPPoE 認証を行わないプロバイダの場合はブリッジタイプの ADSL モデムであっても PPPoE の設定を行う必要がありません。 設定画面の［WAN 側設定］→［IP アドレス自動取得接続］で設定してください。（【③回線に接続する】50 ページ参照）

原因６	使用している ADSL モデムがルータタイプのモデムである。
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定を行う必要がありません。 設定画面の［WAN 側設定］→［IP アドレス自動取得接続］で設定してください。（【③回線に接続する】50 ページ参照）

原因７	回線が不安定である
対処	モデムを再起動（リセット）してみてください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

IPアドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない

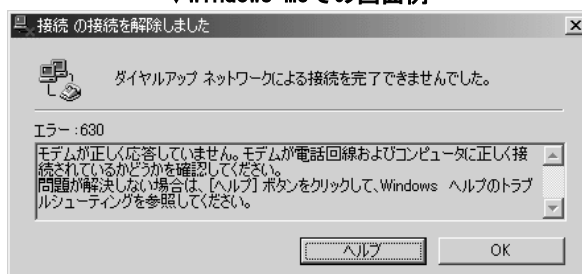
原因１	回線が不安定である
対処	モデムを再起動（リセット）してみてください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

原因２	（IP アドレスが固定割り当ての場合のみ） ［WAN］ポートに IP アドレスが設定されていない。
対処	・あらかじめ本製品の［WAN］ポートにプロバイダから割り当てられた IP アドレスを設定します。 （【③回線に接続する】50 ページ参照） ・パソコンの IP アドレスを本製品の LAN コネクタ［1］～［4］側の IP アドレスと同じクラスのネットワークアドレスに合わせます。デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 **IP アドレス：192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス** **サブネットマスク：255.255.255.0** **デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：192.168.0.1**

原因３	プロバイダから IP アドレスを取得できていない。
対処	プロバイダによっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器しか接続できない場合があります。 MAC アドレスは、LAN アダプタや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、プロバイダ側が、本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN アダプタの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入してもプロバイダ側が本製品の MAC アドレスを認識しません。 プロバイダへ本製品の WAN 側 MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品の WAN 側 MAC アドレスは本体底面のシール、または設定メニューの［ステータス］で確認することができます。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）

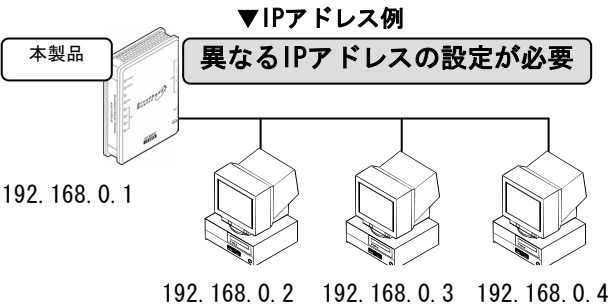
▼Windows Meでの画面例

原因	ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップする設定となっている。
対処	101 ページの原因５を参照して、Web ブラウザを設定してください。

TCP/IPの基礎知識

ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

IPアドレス

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

ネットワーク上で使用するブロードバンドルータ（本製品）や各パソコンには、“192.168.0.1”のようにピリオドで４つに区切られた数字を設定する必要があります。
これをIPアドレスと言い、ネットワーク上で同じにならないように設定する必要があります。

▼IPアドレス例

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスの４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは次のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～126	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127、224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

DHCP

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IPアドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCPは、DHCPサーバとDHCPクライアントで構成され、DHCPサーバがDHCPクライアントに使用可能なIPアドレスを割り当てます。
例えば、本製品をDHCPサーバとし、本製品に接続するパソコンをDHCPクライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能なIPアドレスを入手し、終了時に開放します。

DHCPの特徴

・個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
・設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバーのみの変更で済みます。そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ（ルータ）の IP アドレスも自動で設定されます。
・DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

本製品を DHCP サーバーとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

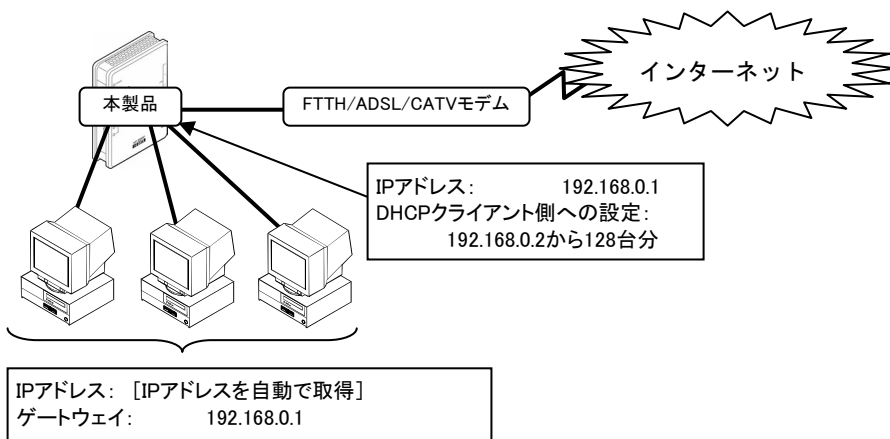
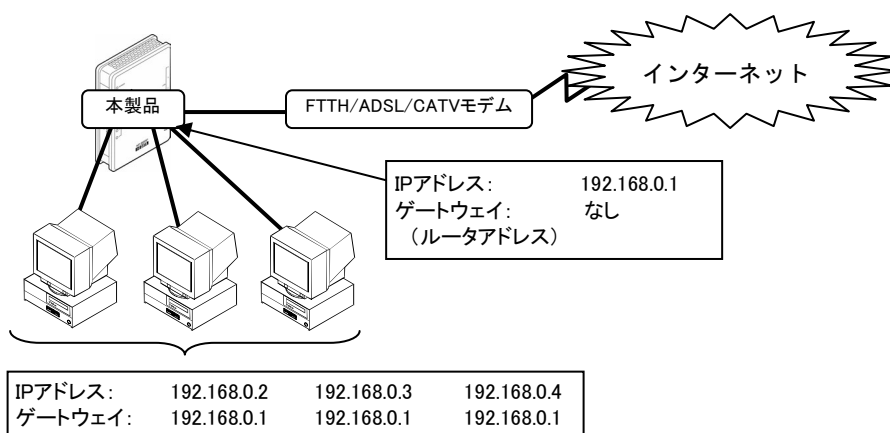
IPアドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの設定例について説明します。

本製品をDHCPサーバとして使用する場合の例

IPアドレス: [IPアドレスを自動で取得]
ゲートウェイ: 192.168.0.1

IPアドレスを手動で設定する場合の例

IPアドレス:	192.168.0.2	192.168.0.3	192.168.0.4
ゲートウェイ:	192.168.0.1	192.168.0.1	192.168.0.1

通信（接続）が正しくできているか確認する（PINGコマンド）

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。

PING コマンドを使用するには、TCP/IP がインストールされている必要があります。

1 ［MS-DOSプロンプト］（またはコマンドプロンプト）を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows Meの場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 98/95の場合

［スタート］→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合

［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］をクリックして起動します。

2 以下のように入力し、［ENTER］キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx（xxx.xxx.xxx.xxx は相手先のIPアドレス）

入力例）　相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は以下のように入力します。

PING　192.168.0.10

3 正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

用語解説

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

ADSL　*(Asymmetric Digital Subscriber Line)*

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の１つです。

CATV　*(CAble TV)*

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供する TV 放送システムです。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ　*(DeMilitarized Zone)*

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS　*(Domain Name System)*

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバ

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります。）

DoS 攻撃

Web サーバや FTP サーバ、メールサーバなど、主にインターネット上の各種サーバに対して大量の（無意味な）サービス接続要求を送り付け、サーバの負荷を高めて過負荷でダウンさせたり、ほかの正当なユーザーへのサービスを妨げたりする攻撃のことです。

DoS 攻撃防御機能

本製品は DoS(Denial of Service)攻撃を検出して遮断する簡易ファイヤウォール機能が搭載されています。

Dynamic DNS　*(Dynamic Domain Name System)*

DNS データベースの内容に変更があったときにその変更を即座に通知したり、変更部分のデータだけを転送するなどの機能を持った DNS です。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、100BASE-TX、10BASE-T があります。

FTTH　*(Fiber To The Home)*

光ファイバーを用いた高速デジタル通信網を個々の家庭まで敷設する通信ネットワーク構想です。

IP unnumbered

プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスをLAN側のパソコンに割り当てて使用できる機能です。グローバルIPを割り当てられたパソコンをインターネットに公開することによって各種サーバを公開・運用することができます。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP *(Internet Service Provider)*

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN *(Local Area Network)*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス *(Media Access Control Address)*

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスで、通常は LAN アダプタに明記されています。
MAC アドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードは IEEE が管理／割当を行っています。ユーザコードは、Ethernet 機器のメーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernet ではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT　*(Network Address Translator)*

LANで使用しているプライベートIPアドレスをインターネットで使用できるグローバルIPアドレスへ変換することにより、プライベートIPアドレスしか持たないLANのコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NATの場合、プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスは1対1で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISPやRASサーバーから提供されたグローバルIPアドレスの数に依存します。

POP　*(Post Office Protocol)*

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IPプロトコルを使ってメールスプールの内容を読み出すためのプロトコルです。プロトコル仕様はRFC1939で定義されています。POP3サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE　*(PPP over Ethernet)*

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP　*(Simple Mail Transfer Protocol)*

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様はRFC821などで定義されています。
SMTPサーバとは送信メールサーバのことを指します。

TCP/IP　*(Transmission Control Protocol ／ Internet Protocol)*

通信プロトコルの１つです。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。プロトコル仕様はRFC854で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的にはTCP/IPのポート番号23番を使用します。

WAN (*Wide Area Network*)

通常はLANに対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

xDSL (*x Digital Subscriber Line*)

ADSLやSDSL、HDSL、VDSLなどを総称して呼ぶ言葉です。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバルIPアドレス

インターネットを使うことを許されたIPアドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器のIPアドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバ

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。
静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル（RJ-45 規格）を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ピアツーピア接続

サーバー／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイヤウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。
名前の由来は「防火壁（firewall)」に因んでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベートIPアドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できるIPアドレス。以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LANのセグメント間を相互接続する機器で、OSI参照モデルのデータリンク層で動作します。パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数のLAN等、ネットワークを相互に接続するための機器です。異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

仮想サーバ（バーチャルサーバ）

「仮想(バーチャル)サーバ機能」といい、本製品ではWeb、DNS、FTPなどのサーバをインターネット上へ公開する場合に使用します。

仕様

●NP-BBRP仕様

規格	IEEE802.3u, IEEE802.3
インターフェース	LAN側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 4ポート （スイッチングハブ搭載、MDI/MDI-X自動判別） WAN側： 10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45) × 1ポート （MDI/MDI-X自動判別）
対応プロトコル	TCP/IP
DHCP	DHCPサーバ：最大253アドレス割り当て （MACアドレス指定による固定割り当て可） DHCPクライアント
セッション数	1(PPPoEセッション) 最大253(IPマスカレードセッション)
MACアドレス接続制限 パケットフィルタ	MACアドレス接続制限とパケットフィルタ合わせて最大24エントリ （パケットフィルタは、ポート番号、IPアドレスで設定）
バーチャルサーバ	最大24エントリ DMZホスト登録機能
接続方式	PPPoE接続（ADSLなど※） 常時接続、オンデマンド接続（CATVインターネット、ADSLなど※） ※ご契約のキャリアプロバイダにより方式が異なります。
PPPoE	ON/OFF可
電源	DC5V、最大550mA
動作温度範囲	0～40℃
動作湿度範囲	10～85%（結露無きこと）
保存温度範囲	-10～60℃
保存湿度範囲	5～90%（結露無きこと）
寸法	約128(W)×90(D)×26(H)mm
質量	約160g（本体のみ）
適応規格	VCCI CLASS B

●NP-BBRP出荷時設定表

項目		初期値
WAN側設定	接続タイプ	IPアドレス自動取得接続
	ホスト名	空白
	ドメイン名	空白
	DNS(ネーム)サーバアドレス	自動取得
	セカンダリDNSアドレス	0.0.0.0（自動取得）
LAN側設定	IPアドレス	192.168.0.1
	DHCPサーバ	有効
	DHCPサーバ→開始アドレス	192.168.0.2
	DHCPサーバ→割り当て数	32
	WINSアドレス	0.0.0.0（設定なし）
パケットフィルタ		設定なし
バーチャルサーバ		設定なし
DMZホスト		設定なし
管理者パスワード		設定なし
セキュアホスト		無効

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター
電話： 本社…076-260-3644 東京…03-3254-1144
※受付時間 9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX： 本社…076-260-3360 東京…03-3254-9055
インターネット： http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に次ページの事項をご用意ください。

▼お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号およびFAX番号
氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
住所：〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
FAX ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2. ご使用の弊社製品名とハードウェアシリアルNo.
製品名：NP-BBRP　　S/N No.：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3. ご使用の本体のメーカー名および型番
メーカー：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
型番：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名
OS：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿バージョン：＿＿＿＿＿＿
アプリケーション：＿＿＿＿＿＿＿＿バージョン：＿＿＿＿＿＿

5. ご利用のインターネットサービスプロバイダ
（例：@nifty,So-net,BIGLOBEなど、キャリアプロバイダと同一の場合もあります。）
ISP名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
コース名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

6. ご利用のキャリアプロバイダ　（例：NTT東日本/西日本,Yahoo!BB,eAccessなど）
キャリアプロバイダ名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
コース名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

7. ご利用のADSL/FTTH/CATVモデムのメーカー名および型番
メーカー：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
型番：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

8. 本製品の設定画面が表示可能ですか？（複数選択可）
☐表示可能　☐表示不可能　☐他のパソコンで表示可能

9. 他のパソコンで表示可能な場合、OSのバージョンをお知らせください
OS：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿バージョン：＿＿＿＿＿＿

10. インターネット上のホームページが表示可能ですか？（複数選択可）
☐表示可能　☐表示不可能　☐他のパソコンで表示可能

11. 他のパソコンで表示可能な場合、OSのバージョンをお知らせください
OS：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿バージョン：＿＿＿＿＿＿

12. その他、現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。
画面の状態やエラーメッセージに内容)

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について
・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。
・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。